

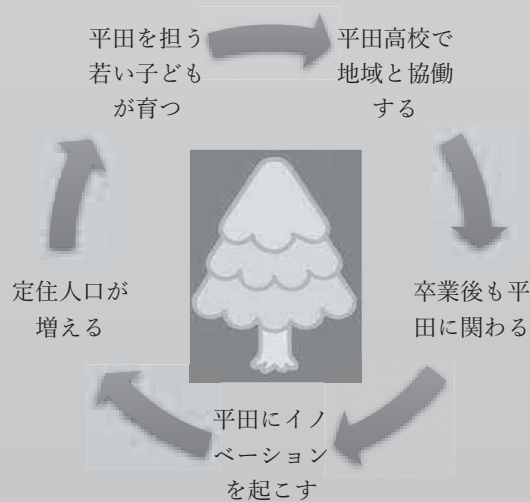
令和元年度指定

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

～地域魅力化型～

研究開発実施報告書・第3年次

## 地域人材育成循環システム 平田プラタナスプラン



令和4年3月

島根県立平田高等学校

## 本校のグランドデザインと次年度からの自走に向けて

### ～地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の深化と進化～

島根県立平田高等学校

校長 小林 努

令和3年度は文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」における本校の事業計画である地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の締めくくりの年となりました。今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を十分にとりつつ、様々な制限・制約がある中で事業を進めてまいりました。おかげさまでとくに夏以降は県内における十代のワクチン接種が推進され、10月には国内の緊急事態宣言等も解除されるなど、徐々に感染症収束の動きも見られるようになり、最終年度にふさわしい取り組みができていますように感じます。

本校が目指しているのは「地域から信頼される、魅力と活力のある学校」です。今年度策定したグランドデザインにも記載していますが、「育てたい生徒像」すなわちグラデュエーション・ポリシーとして「(1)自他の人権を尊重し、差別をなくす実践力のある生徒(2)自己管理ができ、諸活動に対して主体的に取り組む生徒(3)「生きる力」となる学力を身に付け、たくましく自己実現を目指す生徒(4)社会の一員であることを自覚し、よりよい社会の実現のために貢献する生徒」を掲げています。本事業を軸としたすべての教育活動において、私たち教職員は地域との連携・協働によりその実現を図っているところです。

本事業の核となるのは地域の課題解決に向けた体験的・探究的カリキュラムを通じた地域人材の育成です。生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことをねらいとして地域協働学習を進めています。とくに本校の生徒の課題は自己肯定感・自己有用感、表現力、批判的思考力、地域貢献意識、社会参画意識にあると高校魅力化評価システムから読み取れます。

それらの課題を克服していく一つの方策として、今年度は「総合的な探究の時間」における地域協働班別学習を以下のように変更しました。①テーマ設定については、いくつか提示した中から、生徒が各自の興味・関心に応じて選ぶ形に変更。②班編制はクラスの枠を外し、授業は学年一斉に実施し、指導は2年学年会の教員全員が担当。③11月の秋フォーラムを中間発表と位置づけ、班別地域協働学習を通年で実施。これらの変更によりいくつかの利点が認められました。各自がテーマを選択できることによって、これまでよりも自主的に活動できる生徒が増加し、またクラスの枠を外したことにより、生徒間の新たな人間関係構築の場を提供することができました。学年全体で指導にあたったため、教員にとっても一人あたりの負担軽減につながりました。

とくに、事業3年目の活動を展開するにあたって重点を置いたのは、組織的な推進体制をさらに整備することでした。昨年度はワーキングチーム3名を中心に具体的な活動計画を起案し、運営委員会で協議して各分掌で業務を分担する形をとりました。今年度は、新たに配置された魅力化主幹教諭と高大連携推進員を中心として、その2名を含めた6名でワーキングチームを編成した結果、企画・立案するリーダーの存在が明確化し、組織的な取組がよりいっそう改善されました。

本事業を進める中で、学校内にも新たな動きが生まれました。地域と協働した持続可能な学校づくりを推進する「魅力化推進委員会」の設置や5年後の本校の在り方をまとめた「平田高校将来ビジョン」の策定などが挙げられます。

本報告書は、3年間の事業における研究成果をとりまとめたものです。今、一つの区切りとなる時期を迎えていますが、今後も地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」を深化、そして進化させなければなりません。本報告書をご高覧いただき、ご教示いただければ幸いです。最後になりましたが、本校の3年間の研究にご支援、ご指導を賜りましたすべての関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

# 目 次

研究開発実施計画書	1
研究開発実施状況報告書	5
1年 平田ウイングバスツアー	17
学問分野別ガイダンス、地元企業ガイダンス	18
キャリア講演会、職業人講演会	19
個人探究活動	20
2年 授業の流れ	21
班別探究活動報告書	22
県内企業見学	42
島根県立大学訪問・出張講義	43
3年 総探「未来予想図Ⅲ」	44
「総合的な探究の時間」での図書館活用	45
県内大学との連携	50
ループリック開発	51
地域協働学習3年間の変遷	53
平田高校地域協働学習に寄せて 平田商工会議所	55
地域協働フォーラム2021・秋	56
地域協働フォーラム2022・春	61
総探通信 地域版	65
各教科での取り組み	
・教科主任会	69
・国語	72
・地歴公民	73
・数学	74
・理科	75
・保健体育	77
・芸術	78
・英語	79
・家庭	80
コンソーシアム会議	82
編集後記	84

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 島根県松江市殿町1番地  
管理機関名 島根県教育委員会  
代表者名 教育長 新田 英夫 印

1 指定校名・類型

学校名 島根県立平田高等学校  
学校長名 坂根 昌宏  
類型 地域魅力化型

2 研究開発名 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

3 研究開発の概要

食物において「旬」が最も栄養価が高く味も良いのと同様に、「旬」のテーマをカリキュラムに取り入れることで、生徒も大人も意欲的に取り組むことができる。また、成果が数値等で「見える化」できる取組にすることで、生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことができるであろう。

具体的には、以下の3つのテーマに基づき、その時々旬に合わせた題材を設定し地域協働学習を行う。

この3つのテーマは地域における普遍性・汎用性を持ち、その題材は「旬」により様々に代わっても、継続的に取り組むことのできる、また継続の価値の高いテーマである。

① 地域ブランドの創出

- ・地域資源の活用により、今ある資源の価値を再発見し、新しい価値を創造する
- ・地域ブランドの創出のノウハウとそのためカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・生徒が将来地域ブランドの創出に関わる仕事がしたい、または、地元で起業して新しい産業を生み出したいという意欲を育てる。
- ・地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成する。

② 多文化共生社会の推進

- ・多文化共生社会の推進に関わるノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・同じような手法によって、多様な文化を持つ人々が住みやすい街づくりを進める。

③ ファン人口・交流人口の増加策

- ・観光振興のノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・観光客向けの飲食店が増えるなど、産業が活性化する方法を考える。
- ・地域の資源を活かした街づくりに積極的に関わる人材を育成する。

4 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用（□で囲むこと） なし

- ア 学校設定教科・科目を開設している  
イ 教育課程の特例の活用している

5 事業の実施期間

契約日～令和4年3月31日

6 令和3年度の研究開発実施計画

(1) 総合的な学習（探究）の時間の学習計画

総合的な学習（探究）の時間 各学年1単位					
月	1年	2年	3年		
4月	・ガイダンス	ガイダンス ・フィールドワーク ・大学教員の講演会 ・企業見学 ◆班別探究活動	●個人探究活動 ・志望理由書の作成 ・志望理由プレゼン ●大学教官・学生への成果発表 ●地元中学校で成果発表		
5月	・地域トークフォークダンス ・フィールドワーク				
6月	・平田ウイングバスツアー				
7月	・地元企業ガイダンス ・研修旅行調べ学習				
8月	・平田ウイングプレゼン			・大学見学 ・班別探究内容プレゼン  ・島根県立大学 学生ゼミナール参加 ◆地域協働フォーラム秋	・地域協働フォーラム秋
9月	・研修旅行直前学習 ・学問分野別ガイダンス				
10月	・職業人講演会 ・名古屋研修旅行 ・研修旅行振り返り・まとめ				
11月	・地域協働フォーラム秋 ・個人探究活動ガイダンス				
12月	●個人探究活動				
1月	●地域協働フォーラム春	●地域協働フォーラム春	●3年間の学びの振り返り ・特別講座 地域探究		
2月					
3月					

(2) カリキュラム開発の流れ

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カリキュラムドクターとの協働研究												▶
ポートフォリオ作成（キャリア・パスポート）												▶
教科会等での題材開発	各教科年間2回の研究授業											
地域協働学習ワーキングチーム会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域協働学習授業担当学会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キャリア教育推進委員会		○				○				○		
発表会（学園祭、県内・県外発表）					○		○	○			○	

(3) 研究開発の視点

- ・地域の方との交流会、地域の歴史・伝統・産業等の講座等を探究学習として行う「雲州ひらた学」開設のための準備を進める。表の太枠にある2年生の活動を「地域協働学習の軸」とし、1年生は「地域協働学習」をすすめるために必要な素養（聞く力・話す力・地域を知り、課題を知る等）を、入学後の早い段階で、「雲州ひらた学」の中で身につけさせる活動とする。3年生は「地域協働学習」の成果を次世代の高校生や地域社会に伝えていく活動と位置づけ、実施内容の改善を行う。
- ・各教科・科目では、「雲州ひらた学」として構成できるカリキュラムを開発し実施する。  
 (例) ・科学と人間生活, 生物基礎, 生物・・・あずきの成分分析など  
 ・地理A・B, 世界史A・B・・・ブラジルの文化や生活習慣についての調査  
 ・数学I・・・観光客数, 売上金額などのデータの処理や分析  
 ・社会と情報・・・成果発表資料作成能力の獲得 (Word, Excel, PowerPoint)
- ・各教科で年間2回の研究授業を行い、研究開発実施計画と関連する教科横断型の題材開発を行う。その際、カリキュラムドクターや指導主事等による指導助言を受ける。
- ・各教科の取り組みをキャリア教育推進委員会で共有・分析し、以降の取り組み内容の改善と深化を図る。
- ・キャリア学習用のファイルと、クラウド型学習支援システム「G-suite」のポートフォリオ機能を用いてキャリアパスポートを作成することで、生徒自身の振り返りを深化させて学習の質を上げていく。また、学校を含めたコンソーシアムは、生徒の振り返り内容から取り組み内容の改善点を見つけ、次年度以降の計画に活かす。

<添付資料>

- ・目標設定シート
- ・2021年度教育課程表（令和元年度～令和3年度入学生の3年間の教育課程）

7 事業実施体制

全体統括 平田高校 : 教頭、地域協働学習主担当教員  
 平田商工会議所 : 事務局長

課題項目	実施場所	事業担当責任者
① 地域ブランドの創出	平田高校	平田高校：2年副担任4名 平田商工会議所：職員3名
② 多文化共生社会の推進	小・中学校	
③ ファン人口・交流人口の増加策	幼稚園、保育所 地元企業 あずき栽培圃場	
④ その他地域連携	平田・木綿街道 その他平田全域	

運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
細田 智久	島根大学総合理工学部建築デザイン学科 教授	
矢野 俊人	スプレッドリンク株式会社 代表取締役 (島根県6次産業化プランナー)	
岩田 英作	島根県立大学人間文化学部 学部長	
多久和 祥司	伊野地区自治協会 会長	
高橋 泰幸	しまね国際センター 常務理事	
岩本 悠	地域・教育魅力化プラットフォーム 共同代表	
佐藤 睦也	島根県教育委員会 教育監	

※備考欄には、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、関係行政機関の職員等、運営に関して指導・助言にあたる専門の区分を記入すること

高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名	
島根県立平田高等学校（地域協働推進校）	校長	坂根 昌宏
平田商工会議所	会頭	大谷 厚郎
公立大学法人島根県立大学	理事長	清原 正義
出雲市	市長	長岡 秀人
平田ロータリークラブ	会長	釜屋 治男
平田ライオンズクラブ	会長	伊藤 広司
平田地域コミュニティセンター（11地区）	檜山コミュニティセンター長	岡 高秀
平田青年会議所	理事長	多々納 寛之
雲州平田文化協会	会長	山下 壮一
ひらたCATV	代表取締役社長	石原 俊太郎
NPO法人ひらたスポーツ・文化振興機構	理事長	二瀬 武博
出雲市立平田中学校	校長	松原 典生
出雲市立向陽中学校	校長	糸原 進
カリキュラムドクター	島根県非常勤職員	金築 千晴
農林水産省中国四国農政局宍道湖西岸農地整備事業所	所長	井 雄一郎
島根県教育委員会	教育長	新田 英夫
平田高校PTA	PTA会長	日野 ゆかり
平田高校暁星会（卒業生会）	会長	山下 壮一

カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家 (カリキュラムドクター (CD) と称する)	金築 千晴	ひらた在宅SOHO支援センター ポコアネット代表	非常勤職員
地域協働学習実施支援員 (ミッションコーディネーター (MC) と称する)	山岡 忍 小村 孝治 竹下 紀子	平田商工会議所 事務局長 職員 職員	

8 課題項目別実施期間

- ① 地域ブランドの創出 [地元の産物を用いた商品開発、広報活動]  
 ② 多文化共生社会の推進 [外国人との交流会企画、異文化理解活動]  
 ③ ファン人口・交流人口の増加策 [地域イベントの企画、平田地域の活性化活動]

業務項目	実施期間 (契約日～令和4年3月31日)					
	4～6月		6～11月	12～2月	2月～3月	
①地域ブランドの創出 ②多文化共生社会の推進 ③ファン人口・交流人口の増加策	ガイダンス	ワールドワーク 基調講演	調査研究 中間発表	(パワーポイント) 発表資料作成 まとめ	発表 発表	<生徒> ・個人探究に活かす <コンソーシアム> ・活動内容の見直し ・次年度の計画立案

9 知的財産権の帰属 (プロフェッショナル型のみ)

※いずれかに○を付すこと。なお，1. を選択する場合，契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

- ( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。  
 ( ) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

10 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・  無

※有の場合，別添3に詳細を記載すること。

11 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者 ・  免税事業者 (□で囲むこと)

【担当者】

担当課	島根県教育庁教育指導課	TEL	0852-22-6428
氏名	立石 祥美	FAX	0852-22-6026
職名	調整監	e-mail	tateishi-hiromi@edu.pref.shimane.jp

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 島根県松江市殿町1番地  
管理機関名 島根県教育委員会  
代表者名 教育長 野津 建二

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年 4月1日(契約締結日)～ 令和4年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立平田高等学校  
学校長名 小林 努  
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

4 研究開発概要

生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことを目指し、具体的には、以下の3つのテーマに基づき地域協働学習を行う。

① 地域ブランドの創出

- ・地域資源の活用により、今ある資源の価値を再発見し、新しい価値を創造する。
- ・地域ブランドの創出のノウハウとそのためのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・生徒が将来地域ブランドの創出に関わる仕事がしたい、または、地元で起業して新しい産業を生み出したいという意欲を育てる。
- ・地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成する。

② 多文化共生社会の推進

- ・多文化共生社会の推進に関わるノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・同じような手法によって、多様な文化を持つ人々が住みやすい街づくりを進める。

③ ファン人口・交流人口の増加策

- ・観光振興のノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・観光客向けの飲食店が増えるなど、産業が活性化する方法を考える。
- ・地域の資源を活かした街づくりに積極的に関わる人材を育成する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用していない



6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
細田 智久	島根大学総合理工学部建築デザイン学科・教授	
矢野 俊人	スプレッドリンク株式会社（島根県6次産業化プランナー）・代表取締役	
岩田 英作	島根県立大学人間文化学部・学部長	
多久和祥司	伊野やって未来（みら）こい！ネット事務局長	
高橋 泰幸	しまね国際センター・常務理事	
岩本 悠	地域・教育魅力化プラットフォーム・代表理事	
柿本 章	島根県教育委員会・教育監	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者	
島根県立平田高等学校（地域協働推進校）	校長	小林 努
平田商工会議所	会頭	大谷 厚郎
公立大学法人島根県立大学	理事長	清原 正義
出雲市	市長	飯塚 俊之
平田ロータリークラブ	会長	堀江 卓男
平田ライオンズクラブ	会長	梶谷 直子
平田地域コミュニティセンター（11地区）	東コミュニティセンター長	坂本 勝
平田青年会議所	理事長	多々納 寛之
雲州平田文化協会	会長	山下 壮一
ひらたCATV	代表取締役社長	石原 俊太郎
NPO法人ひらたスポーツ・文化振興機構	理事長	二瀬 武博
出雲市立平田中学校	校長	松原 典生
出雲市立向陽中学校	校長	糸原 進
カリキュラムドクター	島根県非常勤職員	金築 千晴
農林水産省中国四国農政局宍道湖西岸農地整備事業所	所長	渡邊 泰夫
島根県教育委員会	教育長	野津 建二
平田高校PTA	PTA会長	角 啓好
平田高校暁星会（卒業生会）	会長	山下 壮一

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	金築 千晴	ひらた在宅SOHO 支援センター ポコアネット代表	呼称「カリキュラムドクター（CD）」 ・島根県非常勤職員として雇用 ・平田高校教務部に配置，原則週2日勤務
地域協働学習支援員	山岡 忍 小村 孝治 竹下 紀子	平田商工会議所 事務局長 平田商工会議所 職員 〃	・呼称「ミッションコーディネーター（MC）」 ・平田商工会議所職員と兼務

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				1回				1回				1回
コンソーシアム構築・運営支援	教育庁各課横断の伴走											
探究学習推進	担当者設定 研修①		ミニ研修①			ミニ研修②				ミニ研修③	研修②③ 発表会	
	探究指導主事の伴走											
コーディネーター研修		研修①	研修②③		研修④			研修⑤⑥		研修⑦		
高校魅力化評価システムによる調査・検証	活用研修①		調査	フィードバック	活用研修②		共有 活用事例					
	各校の検証、県担当者の伴走											
人員配置												配置決定
	予算要求											

(2) 実績の説明

①運営指導委員会の開催

活動日程	活動内容
7月20日	第1回運営指導委員会 ・探究活動について、その都度の活動内容だけでなく、「何を目指しているのか」を明確にしておく必要がある。 ・生徒が考える手助けとなるような大人の関わり、声かけが必要である。 ・平田高校地域協働フォーラム2021・秋について
11月2日	第2回運営指導委員会 ・フォーラムの発表を踏まえ、メモをとりながら主体的に「聞く」ことの指導、プレゼンテーション力の育成が必要である。 ・プレゼンテーション力も含め、探究活動で育成したい力と、教科で育成したい力を相互につなげる意識と工夫が必要である。 ・平田高校地域協働フォーラム2022・春について
3月9日	第3回運営指導委員会 ・日常的に地域住民や、保護者、卒業生が生徒と関わるような体制について検討してはどうか。 ・負担増とならないように工夫しながら、今後も地域連携や地域協働学習の取組を継続していく。

②授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
授業への参加				1回				1回				1回
伴走者フォーラムへの参加										1月		
成果発表会への参加・助言								1回				1回
事業の広報								1回		1回		1回

③体制支援・活動支援

コンソーシアム構築・運営支援	4箇所先の先導モデルの知見を他のコンソーシアムの設置や運営に活用。効果的な構築・運営のための年間を通じた伴走を実施。コンソーシアムの運営費、運営マネージャー配置費を支援（県1/2）
探究学習推進	令和2年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学習を推進する教員を各校1名設定し研修を実施（必修3回、希望者3回、助言支援随時）。探究学習（地域課題解決型学習）実施に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場（「しまね大交流会」、「しまね探究フェスタ」）を設定（今年度はオンラインでの実施）。その他、年間を通じて探究学習の推進に係る助言等を実施。
魅力化コーディネーター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの研修や、教職員のコーディネート機能の研修を実施。
高校魅力化評価システムの構築と活用研修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域へのアンケートを実施。結果を基に校内研修を実施している学校の事例発表を含めた、グランドデザイン実現に向けたPDCA構築のための教職員研修を実施。
人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をR3年度は15名配置、R4年度は3名増員。さらに、R3年度は高大連携を推進する職員を3名配置。

④事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の教育魅力化推進チームの伴走体制の強化による学校・コンソーシアムへの支援の継続
- ・学校と地域が協働して取り組むPBL型研修の実施による、各コンソーシアムの主体的取組への推進支援
- ・令和3年度末にすべての高校でコンソーシアムが構築。令和4年度からは学校運営協議会制度を導入し、一体的に運用することで、法的権限を持った組織として機能強化
- ・すべての教職員が活用できるようICT環境の整備と研修を実施
- ・探究学習推進担当者を中心とした探究的な学びについての質の向上研修の継続
- ・クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について、研究を継続、知見を共有
- ・探究学習や教育課程開発を推進する教職員や教育魅力化コーディネーターの配置、養成・確保・育成
- ・各校が作成したグランドデザイン実現に向けた取組のさらなる推進。「高校魅力化評価システム」等を活用したPDCAサイクルの構築と活用研修の実施

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム開発 専門家との協働研究			10回	6回	1回	5回	10回	6回	4回	4回		2回
地域協働学習支援 員との協議	2回	3回	3回	2回	1回	4回	5回	2回	1回	1回		1回
2年生 地域協働学習 班別探究活動		2回	3回	2回	1回	4回	6回	1回	6回	3回	4回	2回
1年生 個人探究活動								3回	3回	2回	2回	
3年生 個人探究活動		2回	5回	2回								

(2) 実績の説明

①年間の活動内容

カリキュラム開発 専門家との 協働研究	4月～3月		
	地域協働学習ワーキングチーム会議への参加（月に2回程度実施）		
	4月～11月	11～3月	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生地域協働学習「班別探究活動」の授業への参加</li> <li>・生徒への働きかけや取り組ませ方についての校内担当者との協議</li> <li>・授業担当者へのアドバイスと地域人材の紹介・折衝による支援</li> <li>・3年生「未来予想図Ⅲ」校内発表会の実施についての協議、発表会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生「個人探究活動」についての協議（次学年につなげる取り組みや年度の振り返りを協議）</li> <li>・地域人材の紹介と折衝</li> <li>・授業への参加と生徒支援</li> <li>・生徒企画行事（平田まつり）の参加・補佐・助言・事後の教員へのフォロー</li> <li>・次年度に向けての事業内容、日程等の協議</li> </ul>	
地域協働学習 実施支援 員との協議	4～2月		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生地域協働学習「班別探究活動」の授業支援</li> <li>・地域協働学習校内担当者との協議（班別探究活動のための来校時、その他は電子メール）</li> <li>・地域人材の紹介、授業内での補佐</li> <li>・各種地域イベントにおける生徒の活動支援・補佐</li> <li>・地域資源・地域人材の紹介</li> </ul>		
	4月～5月	6月～1月	2月～3月
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平田商工会議所と平田高校との役員打ち合わせ</li> <li>・2年生班別探究活動に関する協議</li> <li>・2年生地域協働学習のフィールドワークを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平田高校地域協働フォーラム2021・秋（班別探究活動中間発表）への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平田商工会議所と平田高校との打ち合わせ</li> <li>・次年度の実施体制、改善点等について検討</li> </ul>
学年	4月～7月		8月～11月
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総探・キャリア学習ガイダンス</li> <li>・平田ウィングバスツアー</li> <li>・学問分野別ガイダンス</li> <li>・「地域みらい学」（平田地域の地理・歴史）（出雲国風土記で描かれた平田地域）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業ガイダンス</li> <li>・キャリア講演会</li> <li>・職業人講演会</li> <li>・平田高校地域協働フォーラム2021・秋</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人探究活動</li> <li>・平田高校地域協働フォーラム2022・春</li> </ul>

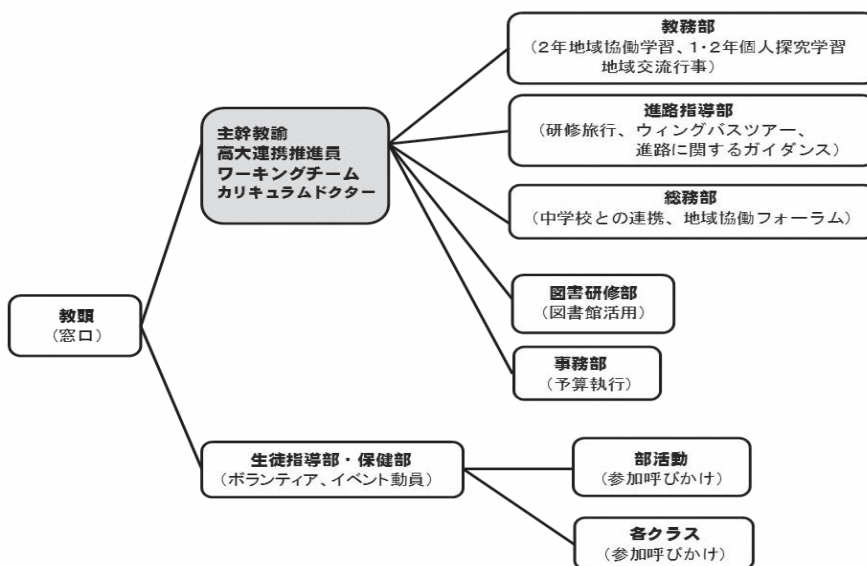
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働学習ガイダンス</li> <li>・地域フィールドワーク</li> <li>・「地域との協働による探究」に関する講演会</li> <li>・班別探究活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平田高校地域協働フォーラム2021・秋</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション講習</li> <li>・平田高校地域協働フォーラム2022・春</li> </ul>
3年生	探究学習と進路に関するプレゼンテーション (校内発表会) (中学校での発表) (島根県立大学生への発表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平田高校地域協働フォーラム2021・秋</li> </ul>	・「探究学習を終えて」(1、2年生に向けた代表生徒による発表)

②研究開発の実施体制について

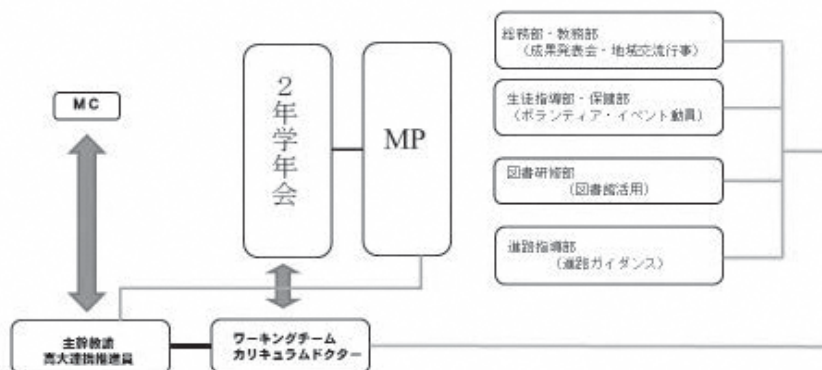
ア：地域人材との協働

カリキュラムドクター (CD)	2年生地域協働学習支援 カリキュラム開発支援
ミッションコーディネーター (MC) (地域協働学習実施支援員) ※平田商工会議所から無償で派遣	2年生地域協働学習支援 2年生地域協働学習で必要な地域人材と学校のコーディネーター
ミッションプランナー (MP)	専門的知識を有する地域人材・大学教員など

イ：地域協働事業全体の校内体制



ウ：2年生地域協働学習・班別探究活動の研究開発体制



③類型毎の趣旨に応じた取組について

地域課題解決型学習に関わるカリキュラム開発と、地域の価値を見だし、さらに価値を創造する地域人材の育成を目指して、地域魅力化型の事業に取り組んできた。

特に2年生の地域協働班別学習においては、グループ活動を通して課題探究の方法を考え、地域をフィールドとして情報収集や検証活動を行っていく。自らの意見を明確に伝え、他者の意見も受容しながら合意形成を図る態度を全教科で育成していくことを狙い、今年度は授業改善のための研修、研究授業のテーマをともに「キョウドウ」とした。また、意識的に教科横断的な内容を含めて研究授業をすることにより、教科の学習内容を実生活に近い素材に落とし込んで指導を行った。

「キョウドウ」をテーマとした研究授業	
教科	内容
国語	「出雲風土記」を読み、過去の出雲についての記述を知る
地歴公民	日本経済における「キョウドウ」
数学	指数を拡張し指数の数を自然数から整数までに拡張し、その上で、化学基礎の教科書の内容の負の整数の指数を使った内容の部分に注目し、その内容の理解を深めた
理科	・大地の動きと出雲平野の形成 ・学習で理解できた免疫のしくみに関する知識を、学習課題解決のために適切に活用する
保健体育	ストレスへの対処
芸術	平田高校校歌の曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり
英語	Let's make haiku in English!
家庭	麻婆豆腐でお父さんの誕生日を祝おう ～ジグソー法による商品選択～

今年度は、この事業について、地域の認知、理解が進み、これまで以上に協力が得られたこと、前年度までの人脈をさらに広げることができたことから、生徒の多様な興味に対応することができた。

また、教育課程内で行った活動がきっかけとなり、地域での自主的な活動を始める生徒が少しずつ出てきており、これらの生徒についても地域の協力をいただきながら、学びを深めることができている。

#### ④ 成果の普及方法・実績について

月日	名称	実績
7/29	山陰探究サミット	令和2年度2年生班別探究活動の成果発表 代表2班(4名)参加 (来場者121名)
11/7	しまね大交流会(オンライン開催)	3年生個人探究活動の成果発表 3年生2名参加
11/2	平田高校 地域協働フォーラム2021・秋	2年生班別探究活動の中間発表 2年生全員の発表
3/9	平田高校 地域協働フォーラム2022・春	1年生個人探究活動の成果発表 クラス代表生徒24名の発表 2年生班別探究活動の成果発表 2年生全員の発表

#### 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

##### (1) 本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム)

平成30年度の事業申請時、「高校魅力化アンケート」の結果をもとに、本校の状況及び事業内容に照らして成果目標を設定した(①)。

事業初年度にあたる令和元年度アンケートの結果について、肯定的評価の割合や他校との比較により検証したところ、①の設定目標の他にも、本校および地域の実情や課題を的確に示す項目が多くあることがわかった。

そこで、これらの項目を成果目標として任意で追加(②)し、より多角的に成果を検証することとした。

## ① 事業開始前の設定目標

項目	今年度 目標値	今年度 7月	今年度 12月
現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる	生徒:66%	75.1%	74.5%
問題意識を持ち、聞いたり調べたりすることができる	生徒:67%	64.0%▼	79.0%
自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めることができる	生徒:70%	70.5%	70.5%
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	生徒:89% 大人:84%	92.3% 71.9%▼	94.6% 92.7%
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	生徒:68% 大人:59%	64.5%▼ 62.5%	67.0%▼ 70.9%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦することができる	生徒:73% 大人:69%	82.5% 67.2%▼	76.7% 70.9%
地元中学生の入学志願割合	30.0%	29.6%▼	
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	生徒:75%	74.6%▼	74.1%▼
将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う	生徒:60%	60.4%	67.2%
地域で生徒を育てるという意識を持っている	大人:83%	84.4%	85.5%
立場や役割を超えて協働している	大人:74%	79.7%	72.7%▼

## ② 事業開始後に任意で追加した設定目標

項目	今年度 目標値	今年度 7月	今年度 12月
自主的に調べものや取材を行う(主体性)	生徒:71%	66.9%▼	70.3%▼
本音を気兼ねなく発言できる(主体性)	大人:64%	62.5%▼	79.9%
日本や世界の課題の解決方法について考える(社会性)	生徒:40%	54.9%	48.6%
学習を通じて、自分がしたいことが増えている(探究性)	生徒:73%	77.2%	80.0%
勉強したものを実際に応用してみる(探究性)	生徒:60%	63.1%	68.9%
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ(探究性)	生徒:37%	47.5%	49.5%
自分を客観的に理解することができる(探究性)	生徒:66%	70.7%	73.6%
国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい(社会性)	生徒:37%	54.2%	48.1%
私に関わることで、社会状況が変えられると思う(社会性)	生徒:43%	55.6%	54.7%
将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい(社会性)	生徒:62%	67.1%	69.1%
地域文化や暮らしを、自らの手で伝えたい(社会性)	生徒:54%	66.4%	63.9%
地域に尊敬している・あこがれている大人がいる (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」)	生徒:49%	55.9%	57.8%
将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる (問う・問われる「対話の土壌」)	生徒:76%	77.2%	76.7%
いま住んでいる地域の行事に参加した(社会性)	生徒:43%	37.4%▼	36.6%▼
地域社会などでボランティア活動に参加した(社会性)	生徒:35%	33.3%▼	34.0%▼
先生、保護者以外の地域の大人と何気ない会話を交わした(社会性)	生徒:58%	60.7%	60.8%
この学校に入ってよかったと思う(満足度)	生徒:82%	83.2%	84.2%

失敗してもよいという安心・安全な雰囲気がある (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」) 生徒と大人の差	26%	11.5%	15.7%
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある (問う・問われる「対話の土壌」) 生徒と大人の差	45%	23.1%	11.9%

(2) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)

項目	今年度目標値	今年度の実測値および評価
発表会来場者数	のべ600人	350名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・山陰探究サミット 121名</li> <li>・地域協働フォーラム秋 30名</li> <li>・しまね大交流会 (オンライン) 172名</li> <li>・地域協働フォーラム春 27名</li> </ul> ○校内で開催した地域協働フォーラムについては、新型コロナウイルス感染拡大を避けるため、外部への呼びかけは最小限とした。 ○臨時休業措置のため、準備を進めていた「しまね探究フェスタ」への参加を急遽中止した。

(3) 成果検証の概況

① 概況

今年度12月時点で目標値に到達していない項目が6項目あった(地元中学生の入学志願割合を除く)。このうち、「いま住んでいる地域の行事に参加した」「地域社会などでボランティア活動に参加した」の2項目については、新型コロナウイルス感染拡大による、行事そのものの縮小が数値に影響を与えている。これらを除くと、今年度目標値との隔たりは最大で1.3%となっており、概ね目標に近い数字となった。

② 生徒の状況について

6項目において5%以上の増減が見られた。そのうち上昇したもの(「問題意識を持ち、聞いたり調べたりすることができる」「将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う」「勉強したものを実際に応用してみる」)については、地域協働学習を通して探究的にものごとを考えながら、地域で活動を行った成果であると考えられる。特に「平田プラタナスプラン」の骨子ともいえる「将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う」生徒の割合は令和元年7月の事業開始時は49.4%であったものが、年々上昇し、今年度12月では67.2%となった。

一方、下降した項目(「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦することができる」「日本や世界の課題の解決方法について考える」「国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい」)をみると、困難な課題に挑戦していこうとする意欲の低下がうかがえ、コロナ禍での社会情勢の影響も推測される。事業開始時から課題であった自主性、探究性、社会性、自己有用感、挑戦意欲について、依然として改善が望まれる。今後も継続して次の取り組みを行う。

- ・ 各教科・科目をはじめ、学校教育活動全体における探究的な学習をいっそう推進する。
- ・ 主体的な学習者としての成功体験を積み上げて、高い目標に挑戦する意欲を高める。

③ 大人の状況について

保守的な地域性も一つの要因となり、自分の思いを表出しにくく、挑戦意欲に欠ける傾向が前年度まで強く表れていたが、今年度12月の調査では、「自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる」「本音を気兼ねなく発言できる」の項目で上昇が見られた。良きモデルとなる大人の姿を生徒たちに示すために、次の点に注力する。

- ・ さまざまな機会を捉え、「育てたい生徒像」を地域と共有し、その具体について意見を出し合うことによって、当事者としての生徒育成意識を高める。
- ・ 定期的に教員研修を行うことにより、教員自身がスキルアップし、挑戦しようとする意欲の向上を図る。



1.2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 地域の方と直接話をする機会や、講演会を通して、自分のキャリアについて考えさせることが、生きる場所の選択肢として地域を捉えるきっかけとなる。キャリア学習と地域協働学習をタイミングよく組み合わせ、高校卒業後の進路にとどまらず、自分の生き方について考える機会を持たせたい。そのためのカリキュラム開発や修正を生徒の変容に合わせ、継続的に行っていく必要がある。名古屋研修旅行を来年度入学生からは2年次に実施するようにカリキュラムを変更した。(令和2年度、3年度は1年次に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施できなかった。)
- (2) 地域との協働を主眼に置いて始めたこの事業を、地域と協働した生徒の探究的な学びへと発展させていくことが課題である。1年次の後半に行っていた個人探究のテーマを今年度から地域課題に限定し、2年次の班別活動へと繋げる予定である。個人探究の内容をもとに班編制を行い、生徒たち自身の話し合いによってさらに具体的な課題を設定し、地域をフィールドとした探究的な学習へと深めたい。教員が生徒に伴走し、適切にアドバイスを与えたり、見守ったりしながら生徒の学習を支援できるような研修の充実が非常に重要となる。次年度は年度当初に探究学習に関する教員研修を複数回、希望者による研修会を必要に応じて実施していく予定である。
- (3) 地域協働学習の開始時には、教員の負担が増加する一面があった。今後は、教員の負担減となるような地域人材の開拓や協働体制の構築に取り組むことが求められる。例えば、今年度実施した「地域みらい学」では教員が授業案を作成して地域の地理、歴史について授業を行ったが、これなども地域人材に依頼が可能である。これまで築いてきた人脈を利用し、協力を得られる部分は積極的に依頼し、継続的に協働していけるようなパイプを構築する。
- (4) 成果発表会の企画運営は総務部、進路関係行事は進路指導部など、役割分担をしながら事業を進め、行事の開催についての校内体制はほぼ完成している。今後は、地域協働学習の日々の授業をどのように充実させていくかという視点を重視し、学年会を中心として生徒の指導を行う体制の充実が求められる。地域協働学習の授業担当者の負担感を軽減するような意見交換の場を時間割内に組み入れること、研修によって伴走スキルを向上させることなど、負担の軽減が難しいとしても「負担感」の軽減につながるような教員の支援体制を作っていく必要がある。
- (5) 今年度は地域協働学習の指針となるルーブリックの作成を行った。また、学期ごとの全体計画と授業ごとの授業案やワークシートを作成し、教員間の目線あわせを行った。今後これらをまとめ、年間の動きが分かるようなマニュアルを作成し、学習の質の向上を図る。

【担当者】

担当課	島根県教育委員会	T E L	0852-22-6165
氏 名	長谷川勇紀	F A X	0852-22-6026
職 名	教育魅力化推進員	e-mail	hasegawa-yuki@pref.shimane.lg.jp

ふりがな	しまねけんりつひらたこうとうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	島根県立平田高等学校		

## 2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる」と答える生徒の割合						
a	本事業対象生徒:		77.7	79.9	74.5	70
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:「今あるものに着目し価値を見つける力」として、2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「問題意識を持ち、聞いたり調べたりすることができる」と答える生徒の割合						
a	本事業対象生徒:		74.7	69.1	79.0	70
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:「今あるものに着目し価値を見つける力」として、2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めることができる」と答える生徒の割合						
a	本事業対象生徒:		68.1	74.0	70.5	70
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:「新たな価値を生み出す力」として、2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる」と回答する生徒と大人の割合						
a	本事業対象生徒:		92.5	90.5	94.6	90
	本事業対象生徒以外:	82	89.5	75.6	92.7	85
目標設定の考え方:「新たな価値を生み出す力」として、2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」と答える生徒と大人の割合						
a	本事業対象生徒:		68.9	71.5	67.0	70
	本事業対象生徒以外:	55	62.5	68.3	70.9	60
目標設定の考え方:「地域にイノベーションを起こす力」として、2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦することができる」と答える生徒と大人の割合						
a	本事業対象生徒:		78.2	79.9	76.7	75
	本事業対象生徒以外:	67	61.4	73.2	70.9	70
目標設定の考え方:「地域にイノベーションを起こす力」として、2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
地元中学生の入学志願割合						
b	本事業対象生徒:		24	30	30	33
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:地元の2中学校からの平田高校への志願が、3人に1人強となることを目指す。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」と答える生徒の割合						
b	本事業対象生徒:		78.9	77.5	74.1	80
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
「将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う」と答える生徒の割合						
b	本事業対象生徒:		64.5	65.3	67.2	65
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
「地域で生徒を育てるという意識を持っている」と答える大人の割合						
c	本事業対象生徒:					
	本事業対象生徒以外:	77	86.0	95.1	85.5	85
目標設定の考え方:2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
「立場や役割を超えて協働する機会がある」と答える大人の割合						
c	本事業対象生徒:					
	本事業対象生徒以外:	69	68.4	73.2	72.7	75
目標設定の考え方:2018年度の県平均値を現状値として目標を立てた。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回
a 地域協働学習ワーキングチームの会議実施	なし	なし	12	12	27	12
目標設定の考え方: 月1回の実施						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回
a 地域協働学習授業担当者会議の実施	なし	6	12	12	12	12
目標設定の考え方: 月1回の実施						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回
a 各教科(国語、地歴公民、数学、理科、英語、保健体育、芸術・家庭)の研究授業回数	7	7	14	18	18	21
目標設定の考え方: 2019年度は各教科で年2回の研究授業とし、その後、総合的な探究の時間での研究授業を増やしていく。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回
a キャリア教育推進委員会の実施	2	2	3	3	3	3
目標設定の考え方: 4月、9月、3月に実施する。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回
b 先進校としての研究発表回数	0	2	3	4	4	6
目標設定の考え方: 構想調書の発表回数から目標設定をした。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位: 時間
c 1クラスあたりの図書館を利用した「教科・科目」の授業数	10.3	14.2	18.7	14.3	6.1	25
目標設定の考え方: 島根県内のキャリア教育推進校やSSH校・SGH校の図書館利用状況を参考にした。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位: 人
a 授業に関わった外部人材人数	3	5	8	20	30	20
目標設定の考え方: 最終的には1・2年生の研究テーマ20に一人ずつの外部人材が入る形にする。						
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: %
a 発表会への高校生以外の参加者数(のべ)		200	400	150	350	700
目標設定の考え方: 平田地区の人口6,900人の1割超を最終参加目標とする。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位: 人
b 卒業生(大学生・専門学校生)ワークショップへの参加者数	なし	5	10	2	9	20
目標設定の考え方: 県内上級学校在学中の卒業生の5人に1人を参加目標にする。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)		473	456	452	429
本事業対象生徒数			456	452	429
本事業対象外生徒数			0	0	0

2. 大人を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
本事業関係者の地域の大人(人)			30	72	64

## 1年生 平田ウイングバスツアー

1. 目的 (1) 各地区の現状や取り組みを聞き、地域の中でなすべきことを考える。  
(2) 寺院や景勝地を訪問し、地域資源のもつ価値を見いだすことを考える。
2. 日時 6月8日(火) 5～7限
3. 内容 「平田ウイング」と呼ばれる平田地域の沿岸部・農村部を巡るツアー  
現地の方やコミュニティセンター(以下、「コミセン」)の方によるガイドあり。
4. 場所 1組 鰐淵地区：鰐淵コミセン、鰐淵寺  
2組 伊野地区：一畑薬師 (伊野コミセンのセンター長 来校)  
3組 北浜地区：北浜コミセン、十六島風車公園、義勇の碑  
4組 佐香地区：佐香コミセン、立石神社
5. 事前・事後学習  
事前学習 「ふるさとマップ」や各地区のガイドの配布  
事後指導 ジグソー法を用い、訪れた地区の情報を相互に共有し、ワークシートをもとに地域の課題やその解決法を考えるワークを実施
6. 「ザ・プレゼン」  
各クラス代表がバスツアーでの訪問先について、調べたり、実際に訪問したりしたことで気付いた魅力や価値、課題などを、プレゼンテーションアプリを用いて発表した。発表は鈴懸祭1日目の「ザ・プレゼン」で行った。

クラス	「ザ・プレゼン」タイトル
1組	「〔神回〕 弁慶について調べてみたらやばかった」
2組	「身近な地域創造と一畑薬師」
3組	「北浜の魅力」
4組	「Oh!佐香」



## 1年生 学問分野別ガイダンス

1. 目的 学びの本質、学ぶ意義、学部・学科の特徴等を各大学等の関係者の方から直接聞くことによって、大学等で学ぶことへの興味・関心を高め、より広い視野で進路選択ができるようにする。また、文・理コースを選択する際の参考にする。
2. 日時 7月6日(火) 5・6限
3. 形態 学問分野別に16ブースを設け、各大学等から招いた講師がガイダンスを行う。各ブースで各大学等の学問説明30分(質疑応答を含む)これを3回繰り返す。
4. 参加大学等  
(対面実施) 島根大学、島根県立大学、鳥取大学、鳥取短大、ポリテクカレッジ島根、島根リハビリテーション学院、大阪健康福祉短大(安来キャンパス)  
(オンライン実施) 広島工業大学、環太平洋大学、比治山大学、広島文教大学



## 1年生 地元企業ガイダンス

1. 主催 島根県立平田高等学校 島根県商工労働部雇用政策課
2. 目的 地元企業についての知識を得ることにより、進学先での学びを見通しあるものとし、自分自身のキャリアを考える。
3. 日時 9月14日(火) 5~7限目
4. 参加企業 18社(建設業、製造業、情報通信、卸売業、学术研究、宿泊・飲食、生活関連、医療・福祉、サービス業等)
5. 事前学習 事前に配布された企業の紹介をまとめた冊子を読み、参加企業を理解した上で、受けたいガイダンスを希望する。



## 1年生 キャリア講演会

1. 目的 多様な経歴を持つ講師の講演を通して、文理選択や高校卒業後の進路にとどまらず、どのように生きていくのかについて、生徒に考えさせるキャリア教育の機会とする。
2. 日時 9月22日（火）6・7限目
3. 講師 島根大学地域未来協創本部人材育成・キャリアデザイン部門  
准教授 丸山実子氏
4. 事前・事後学習  
事前学習：これまでのキャリアパスポートを見直す。  
事後学習：学習シートを用いて、講演を通して考えたことなどの振り返りを行う。



## 1年生 職業人講演会

1. 目的 職業人である講師の高校時代、大学時代、さらに現代に至るまでの職業人としての歩みや、変化の激しい未来を生きていく高校生たちへのメッセージなどを聞いて、生徒一人ひとりが社会の求める人材や、働くことの意識の涵養と、豊かな人間性をはぐくむことを目的とする。（キャリア教育の一環）
2. 日時 10月27日（水）3・4限目
3. 講師 島根大学地域政策学部地域政策学科 准教授 田中輝美氏  
島根県教育庁教育魅力化特命官 岩本悠氏
4. 事前・事後学習  
事前学習：講師の簡単なプロフィールより、講演で話してほしい内容について質問を考える。  
事後学習：学習シートを用いて、講演を通して考えたことなどの振り返りを行う。



## 1年生 個人探究活動

1. 目的
- ・地域の現状や問題点についての学びから、興味を持った内容をさらに調べるにより、2年次に実施する班別地域協働学習の準備とする。
  - ・調べた内容について資料を作成し、聞き手に分かりやすく伝えることを目指して発表を行う。

### 2. 内容

①「島根創生計画」説明会（11月9日 2限）

島根県が作成する「島根創生計画」について県担当者から説明を聞き、個人探究のテーマ設定の参考とする。

講師 島根県政策企画局政策企画監室  
政策スタッフ 政策調整監 細田智子 氏

②個人探究活動（8時間程度）

- ・それぞれの生徒が「島根創生計画」リーフレットを参考に、関心のある分野を選び、書籍やインターネットを用いて調べ学習を行う。
- ・発表用のパワーポイント資料を作成する。

③クラス内発表会（2時間）

- ・作成したパワーポイントを用い、すべての生徒が地域課題に関する発表を行う。
- ・代表生徒を各クラス6名選出する。

④「地域協働フォーラム2022・春」

- ・代表生徒による発表を行う。

### 3. 令和元年度～令和3年度の変更点

令和元年度以降、1年次の後半で個人探究活動を行ってきた。令和元年度、2年度については、探究学習の前提となる情報収集に主眼を置き、それぞれの生徒が関心を持った内容を自由に選んだため、「授業中に眠くならないようにするためには。」「早くボールを投げるためにどうしたらよいか。」などテーマはかなり広範囲なものになっていた。

令和3年度には、1年次の調査内容が、2年生の班別地域協働学習へと繋がるように、調査内容を地域課題に特定した。1年次にウイングバスツアー等を通して気づいた地域課題や、県の施策を参考にし、自分自身の進路志望も意識しながら地域の現状について課題意識を持たせたい。

令和4年度に実施する2年生の班別探究地域協働学習では、1年次の個人探究活動の内容を元に班編制を行い、班ごとにテーマを決めていく予定である。



## 2年生 授業の流れ

### 4月21日 ミッション説明会（全体）

平田地区に関する9つのテーマについて、課題や現状などをの説明会を行った。

《テーマ》農業・小豆、文化伝承、平田船川、スイーツ開発、地域医療、多文化共生、空き家・廃校活用、イベント、愛宕山

### 5月25日 フィールドワーク（班別）

ミッション説明会後、探究したいテーマの希望調査を行い、それをもとにグループを決定。グループの親睦会も兼ねて平田の町のフィールドワークを行った。

### 6月1日 島根県立大学 地域政策学部 教授 久保田典男氏 講演会（全体）

演題「地域活性化に向けた大学と地域との協働による探究の方法」

### 6月15日 班別探究活動の開始（班別）

活動が開始し、6月22日にはミッションプランナー（以下MP）に来校していただき、詳しい探究テーマを決める時の参考にするため、テーマごとに現状や課題についてお話していただいた。

（班別活動 3時間）

### 7月20日「探究テーマ検討会」（テーマ別）

多くのMPに来校していただき、生徒たちが考えた「班別探究活動計画書」についてアドバイスをいただいた。

（班別活動 10時間）

### 11月2日 地域協働フォーラム2021・秋 中間発表（全体）

全29班が15会場に分かれて発表を行った。

（班別活動 14時間）

### 2月2日 プレゼンテーション講習会

外部講師を依頼し、プレゼンテーションのコツやポイントをご指導いただいた。

### 3月9日 地域協働フォーラム2022・春 最終成果発表（全体）

全29班が12会場に分かれて発表を行った。

## MP一覧

テーマ	講師
小豆・農業	JAしまね 出雲地区本部 東部営農センター センター長 西尾一俊様 小村隼人様 岡農産 岡 舗潔様 味彩さかもと 坂本圭様
文化伝承	河下盆踊り保存会 多久和淑子様 戸次孝子様 鰐淵コミュニティセンター センター長 高橋一夫様
船川	雲州平田船川環境整備促進協議会 高橋研様
スイーツ開発	文吉たまき 店長 竹田敏美様
地域医療	島根県立大学 教授 梶谷みゆき様 助教 日野雅洋様 平田行政センター 西尾美保様 林ひとみ様
多文化共生	外国人地域サポーター 堀西雅亮様
空き家活用	ひらた空き家再生舎 理事長 吉岡拓也様
愛宕山	出雲市役所都市計画課 長岡伊里弥様 株式会社山崎組 片寄治紀様 愛宕山公園指定管理者たてぬい建設事業協同組合の皆様
スイーツ開発・農業・小豆	島根県立大学 准教授 籠橋有紀子様
地域医療・愛宕山	株式会社あしたの為のDesign 布野カツヒデ様
スイーツ開発・小豆	おやつ工房 Lukka 上代奈穂美様



## 1. 背景

- ・野菜を買うときに、地元のものか意識する人が少ない（地元野菜の知名度が低い）
- ・後継者が不足している

## 2. 探究の目的・意義

地元の野菜を地域の人に広め、販売促進につなげる。

## 3. これまでの活動

- ・JAしまねの西尾様から、平田の農業の現状などを聞く
- ・岡農産へのインタビュー、圃場見学
- ・アスパラマフィン、ブロッコリードーナツのレシピ作成・試作
- ・作ったレシピを活用してもらいやすくするための調理の様子の動画作成

## 4. 成果・発見・気付き

地元野菜について調査する中で、出雲には私たちの知らない野菜がたくさんあると分かった。また、レシピを作ることはできたが、そのレシピを使って地元の野菜を広める工夫をするのが難しかった。

## 5. 今後の課題

配布したレシピが地元野菜を広める効果があったか調査する。

今回は生産者の方を中心にインタビューを行ったが、消費者の方が地元野菜について何が知りたいのか、どんなことを求めているかなどの調査も行う。

また、今回の調査で分かった他の地元野菜の活用方法も考えたい。

次年度に農業について探究する人たちにはレシピ作成以外の方法で、地元野菜の知名度を上げる方法の探究に取り組んでほしい。

## 6. 引用文献・参考文献

クックパッド

## 7. 謝辞

JAしまね 出雲地区本部 東部営農センター センター長 西尾一俊様

岡農産 岡舗潔様

島根県立大学 准教授 籠橋有紀子様

おやつ工房 Lukka 上代奈穂美様



## 1. 背景

- ・ 農業従事者の高齢化、後継者がいない
- ・ 平田の柿の認知度が低い

## 2. 探究の目的・意義

平田の柿を知ってもらい、販売促進につなげる。

## 3. これまでの活動

- ・ JA しまね 西尾様より平田の農業の現状について話を聞く
- ・ 柿壺で皮むき、干し柿作りの現場見学、インタビュー
- ・ 柿を使用したパイ、パウンドケーキ、ラッシー、ショートケーキ、サラダ、グラタンの試作
- ・ 販売促進資材の作成（西条柿のキャラクターを作成、レシピや美味しく食べる方法を示したポスター）

## 4. 成果・発見・気付き

- ・ 柿にはいろいろな効果（美肌、老化防止、風邪予防）がある
- ・ 柿は料理のバリエーションが豊富

## 5. 今後の課題

柿を使った料理を作ったが、課題が残るものがほとんどだった。今後は試作を繰り返す中で、地域の人にオススメしたいレシピなどをさらに厳選していきたい。また販売促進資材も作ったので、レシピと合わせて、平田の柿の良さやおいしさを地域の人に知ってもらおうきっかけとしていきたい。

## 6. 引用文献・参考文献一覧

クックパッド・キューピー・dancyu・E レシピ

## 7. 謝辞

JA しまね 出雲地区本部 東部営農センター センター長 西尾一俊様 小林隼人様  
岡農産 岡舗潔様  
島根県立大学 准教授 籠橋有紀子様  
おやつ工房 Lukka 上代奈穂美様  
柿壺株式会社 小松正嗣様



## 1. 背景

現在平田は少子高齢化問題に直面しており、農業の後継者不足に陥っている。そのため農業の衰退化が進んでいる。

## 2. 探究の目的・意義

平田の野菜の魅力を広く知ってもらうことで、農業の衰退化を止め、地域の活性化を図る。

## 3. これまでの活動

- ・JA しまね 西尾様から平田の農業の現状を聞く
- ・岡農産の圃場見学、インタビュー
- ・お弁当作り
- ・味彩さかもと 坂本様にご指導いただきながらのパスタ作り
- ・作ったパスタをJA しまねの皆様を試食していただき、感想をいただいた

## 4. 成果・発見・気付き

パスタではお弁当のときには出来なかった野菜を主食とした料理をパスタという形で作った。ブロッコリーを主食としたホワイトパスタは非常に美味しく出来が良いと言えるが、麺が固まり食べづらい、味にインパクトが欲しい、ソースが絡みにくいなどの配慮すべき点、改善点が多く見られた。

## 5. 今後の課題

パスタを作ったが、それが農業の衰退化を止めることにどう繋がるのかまでは考えることができなかった。途中からおいしい料理のレシピを作るということが目的になってしまった。今後はレシピを改善しながら、それをどう平田の農業に活かすのか、他にも平田の農業を活性化させる方法がないのかを考えることが課題だと言える。

## 6. 謝辞

- ・JA しまね 出雲地区本部 東部営農センター長 西尾 一俊様
- ・岡農産 岡 舗潔様
- ・味彩さかもと 坂本 圭様



## 「小豆を広めよう～若者人気を目指して～」

小豆班

### 1. 背景

- ・ 出雲産小豆の知名度が低い。
- ・ 若者からの人気が少ない。

### 2. 探究の目的・意義

出雲市は出雲産小豆の地元定着や、安定的収穫に力を入れている。その一助となるため。

### 3. これまでの活動

- ・ 先行事例の調査
- ・ 若者が好むスイーツは何かを考えた
- ・ あずきスコーン、あずきマフィンの試作
- ・ ラピタ平田店（JA しまねが経営するスーパーマーケット）でのレシピ配布

### 4. 成果・発見・気づき

- ・ 小豆には多くの栄養素（例：食物繊維、ポリフェノール、鉄分、ビタミンB1、カリウム）が含まれることが分かった。
- ・ スイーツを試作する中で、あずきは和風のスイーツだけでなく、洋風のスイーツに使用してもおいしいことが分かった。
- ・ あずきのスイーツのバリエーションはたくさんある。
- ・ 出雲産あずきがラピタにない（あまり出回ってない）

### 5. 今後の課題

販売促進資材を作成することで、出雲産小豆を知ってもらう活動を行いたい。

スーパーではなく、大学などもっと若者が集まる場所にレシピを置かせてもらうなど、さらに若者に出雲産小豆を広める活動を行う必要がある。

### 6. 引用文献・参考文献

- ・ クックパッド
- ・ [https://www.imuraya.co.jp/azuki/health/azuki\\_health/](https://www.imuraya.co.jp/azuki/health/azuki_health/)

### 7. 謝辞

- ・ JA しまね 西尾一俊様
- ・ 岡農産 岡 舗潔様



## 1. 背景

後継者の高齢化・知名度が低い。

## 2. 探究の目的・意義

- ・ 689年続く伝統芸能であるから。
- ・ 保存会があり保存していきたいと思っている人がたくさんいるから。
- ・ 地域活性化の1つの手段となり得るから。

## 3. これまでの活動

- ・ 実際に踊る・「河下盆踊り」の知名度のアンケート
- ・ 鰐淵コミュニティセンター長さんから「河下盆踊り」の歴史や現状について話を聞く
- ・ 鰐淵コミセン（河下盆踊り保存会の皆さんの前）での中間発表
- ・ 河下盆踊り保存会の皆さんへのアンケート
- ・ 知名度アップのためのポスター作成

## 4. 成果・発見・気付き

目標は、河下盆踊りの知名度を上げ、踊り手を増やすことだったが、今はまだ成果は出せていないので、ポスター(作成済)や SNS(作成中)などで少しずつ知名度を上げていきたい。また、踊り手になりたいという私のことを、保存会の方が喜んで受け入れてくださった。

## 5. 今後展望

SNSやポスターを活用して「河下盆踊り」の知名度を上げ、踊り手を増やす。

## 6. 引用文献・参考文献

- ・ 鰐淵コミュニティセンター河下盆踊りパンフレット
- ・ 平田中学校区ふるさとマップ

## 7. 謝辞

鰐淵コミュニティセンター長 高橋一夫様

河下盆踊り保存会

河下盆踊りのご指導 多久和淑子様 戸次孝子様



## 「平田船川」

船川を大切にしていますか？  
釣り人を増やそう！  
町に活気を出そう

船川A班  
船川B班  
船川C班

### 1. 背景

- ・生物環境がよくない
- ・船川・河岸が汚れている
- ・地域の方々からの印象が悪い
- ・船川を活用したイベントがない

### 2. 探究の目的・意義

- ・船川を利用して町に活気を出す
- ・船川でたくさんのイベントをすることによって平田の町を盛り上げる

### 3. これまでの活動

- ・船川の周辺環境調査
- ・生態系調査（釣り）
- ・アンケート調査

### 4. 成果・発見・気づき

- ・船川の近くには、多数のゴミが落ちている
- ・川は汚かったが生物が生息している
- ・船川は汚いというイメージを持っている人が多い
- ・釣りをして楽しむことができる
- ・船川周辺には活用されていないスペースがたくさんある

### 5. 今後の課題

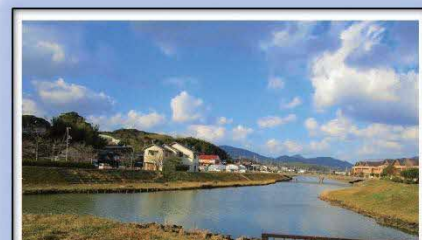
ゴミを捨てないように呼びかけるポスターの設置や、掃除イベントを実施することで、船川周辺のゴミを減らす取り組みを行う。それにより、「船川は汚い」という地域住民の印象を改善したい。また、掃除以外に楽しめるイベントを実施することで、地域を盛り上げていきたい。

### 6. 引用文献・参考文献

雲洲平田船川住民アンケート集計結果

### 7. 謝辞

雲州平田船川環境整備促進協議会 高橋 研様



船川を大切にしていますか  
船川にゴミを捨てていないですか  
あなたの行動が  
環境を汚しているかもしれません  
今一度、  
環境について考えてみてください

## 「スイーツ開発」

木綿街道人口増加作戦  
スイーツで木綿街道を活性化  
文吉たまきのスイーツ開発

スイーツ開発A班  
スイーツ開発B班  
スイーツ開発C班

### 1. 探究の目的・意義

平田高校近くの木綿街道を訪れる若者が少ないため、木綿街道の若い世代の人口を増やし、平田の町全体の活性化につなげたい。木綿街道のうどん店である「文吉たまき」で提供できるスイーツを開発し、若者や女性の集客につなげたい。

### 2. 活動内容

作りたいスイーツに関する情報を集め、試作品を作った。

### 3. 成果・発見・気づき

- ・容器・値段についても考えなければならなかった。
- ・どうしたいかをイメージしていてもいざ作ってみるとイメージと違っていたり、うまく作れなかった。回数を重ねるごとに工夫することができるようになった。
- ・ヘルシーを意識しすぎるとおいしいスイーツが作れない。
- ・すぐに作れるものか、作り置きできるスイーツがいいと思った。
- ・地域の食材をどう使うかも考えないといけないと思った。
- ・盛り付け方を工夫することが大切である。

### 4. 今後の課題

- ・作るスイーツの候補を考え、計画的に進める。
- ・原価をしっかり計算する。
- ・見た目を工夫しする。

### 5. 引用文献・参考文献

クックパッド

### 6. 謝辞

島根県立大学 籠橋有紀子様  
おやつ工房 Lukka 上代奈穂美様  
文吉たまき 店長 竹田敏美様



## 1. 背景

保健師さんより、「出雲市の平均寿命は、健康寿命より約10年長い」ことを聞いた。このことは、思うように生活できない期間が長いことを示している。平均寿命と健康寿命の差が縮まるといいと思い、このテーマで探究することにした。

## 2. 探究の目的・意義

島根県立大学（以下、県立大）の先生やMPさんの助言により、「社会参加をすることが健康につながる」と考えた。そして、自治体の活動や地域の行事などに参加する人たちに、普段の生活や健康についての考えを聞いてみた。

## 3. これまでの活動

- ・平田地域や出雲市の現状について出雲市役所の保健師さんからお話を伺った。
- ・県立大の先生より、探究活動のアドバイスをいただいた。
- ・社会参加と健康には本当に関わりがあるのかを調べるために、地域でクラブ活動をしていらっしゃる高齢者の団体2組にお話を聞いたり、一緒に活動をしたりした。
- ・平田で高齢者の生活支援の活動をしている NPO 法人たすけあい平田の代表の方にお話を伺った。

## 4. 成果・発見・気付き

- ・社会参加をしていらっしゃる高齢者の方は、活き活きと活動していらっしやった。
- ・県立大の先生のアドバイスをもとにコミセンへ行き、高齢者の社会参加の現状を知ることができた。
- ・社会参加できない状況の人も、たすけあい平田のようなサービスを利用することで、自立した生活している人がいることが分かった。
- ・実際に高齢者の方にインタビューしてみて、会話を大切にしている人が多いことが分かった。

## 5. 今後の課題

- ・どうしたら平均寿命と健康寿命の差が縮まるのかをもっと探究したい。
- ・多くの人に社会参加してもらうために、社会参加の魅力を広めていく活動をしたい。

## 6. 引用文献・参考文献

- ・高齢者の社会参加活動 健康長寿ネット (tyojyu.or.jp.)

## 7. 謝辞

- ・出雲市役所平田行政センター市民サービス課 西尾美穂様 林ひとみ様
- ・島根県立大学看護栄養学部 梶谷みゆき様 日野雅洋様
- ・平田楽園クラブの皆様 奥野愛子様(写真提供)
- ・楽しく健康を創る会レインボーヘルスの皆様
- ・たすけあい平田 熊谷美和子様





## 1. 背景

島根県では高齢化が進んでいる。(島根県の高齢化率 29.92% (2021 年)) 高齢化が進むと、経済規模の縮小、人口減少などが急速に悪化し、地方が消滅する。島根県がそうならないためにも、現在の少子高齢化を少しでも改善したい。

## 2. 探究の目的・意義

島根県の少子高齢化を改善したい。改善方法の一つとして、子育て世代を増やすことが考えられる。よって、子どもを育てやすい環境について考えた。

## 3. これまでの活動

- ・保健師さんから「島根県の子育てについて」の話を聞いた。
- ・少子高齢化、それに伴う影響について調べた。
- ・島根県立大学の先生から「島根県の出生率について」の話を聞いた。
- ・アンケートの実施「子どもを育てやすい環境を作るために」

## 4. 成果・発見・気づき

- ・島根県は出生率が高いにもかかわらず高齢化が進んでいること。
- ・島根県は子供を育てにくい環境ではないこと。
- ・島根県に子育て世代が少ないこと。

## 5. 今後の課題

- ・島根県の少子高齢化を改善するためには何が必要か

## 6. 引用文献・参考文献

- ・「都道府県ランキングつき」日本と世界の高齢化率がよくわかる！
- ・ハートページナビ「heartpage.jp」
- ・少子高齢化の問題点8選！社会への影響と対策もわかりやすく解説！
- ・一シニアライフお墓・霊園比較ナビ 今知りたいライフエンディングのこと [minnshu.com]
- ・少子高齢化問題とは？現状や課題を知り解決策を考えよう「gooddo.jp」

## 7. 謝辞

- ・島根県立大学看護栄養学部 梶谷みゆき様、日野雅洋様
- ・出雲市役所平田行政センター市民サービス課 西尾美穂様、林ひとみ様
- ・島根県立平田高等学校の先生方



## 1. 背景

出雲市では医師や看護師などの人数の点で10万人あたりの人数が全国の約二倍であり、医療が充実しているため環境が整っているのにも関わらず、「行くのが面倒」、「忙しい」などの理由で健康診断に来る人の割合が少なくなっている。

## 2. 探究の目的・意義

「病気になってから後悔しないように定期的に健康診断を受けてほしい！全世代の健康を守りたい！」という思いから、早期発見・早期治療をしてほしい。

## 3. これまでの活動

- ・ 保険師さんに出雲市の出生率や現在行っている取り組みなどの話を聞いた。
- ・ テーマを設定した。
- ・ 島根県立大学出雲キャンパスへ行き、探究計画書を発表し、大学の先生方から助言をいただく。
- ・ 健康診断を受ける人を増やすにはどうすればいいか話し合い。
- ・ 健康診断を受けることを勧めるポスターを作製した。
- ・ デザイナーの布野様たちに助言をいただく。
- ・ 完成したポスターを貼りに行く。

## 4. 成果・発見・気づき

ポスターを制作することの難しさが分かった。背景のデザインや、文字の大きさ、配置、言葉などについてみんなで何回も話し合い、目を引くような素晴らしいポスターを制作することができた。また、がんの検診受診率が自分たちの予想していた値よりもはるかに下回っていたことに驚いた。

## 5. 今後の課題

ポスターを通して、健康診断に対する呼びかけをし、受診率が目標値を上回るようにする。

## 6. 引用文献・参考文献

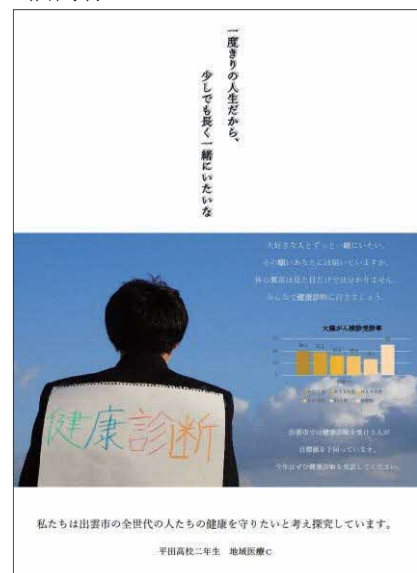
資料：出雲市集計

## 7. 謝辞

- ・ 出雲市役所平田行政センター市民サービス課 西尾美穂様 林ひとみ様
- ・ 島根県立大学看護栄養学部 梶谷みゆき様 日野雅洋様
- ・ 株式会社あしたの為のデザイン 布野カツヒデ様 南木様 福島様

【ポスター掲示にご協力いただいたところ】

- ・ グッティー平田店
- ・ ViVA 平田店
- ・ ラピタ平田店
- ・ 今村耳鼻科医院
- ・ メモリー平田店
- ・ ガスト平田店



## 1. 背景

出雲市では2019年から外国人受け入れが拡大し、前年と比べると外国人の数が2倍近く増加している。その影響で出雲市の小学校では日本語が話せない子供が多くなっている。

## 2. 探究の目的・意義

日本人になじめない子供に日本の社会での居場所を作り、日本での生活を楽しめるように支援する。

## 3. これまでの活動

- ・ 中部小学校の訪問（授業の見学）
- ・ 出雲市教育委員会への電話によるインタビュー
- ・ 文部科学省へのメールによる質問
- ・ 中部小学校放課後子どもクラブ「ニコニコ」を見学
- ・ 中部小学校の外国人児童のために年賀状を作成

## 4. これまでの活動からの成果・発見・気づき

日本人の子供と外国人の子供は言語が異なるため、外国籍の子供たちが固まってしまう（コロニーが作られてしまう）ことが多かったり、日本語指導の教師が少なかったりといった言葉の壁にかかわる問題が多いことが分かった。また、言語だけでなく、文化的な違いに関するサポートも必要である。

実際に外国籍の子供たちに年賀状を作成したが、外国人でも読みやすい「やさしい日本語」で書くのは思ったよりも難しく、外国籍の子供たちにとって何が分かりにくく、難しいのかについて知識が必要であると分かった。

## 5. 今後の課題

前述した言葉の壁を取り払うために何をすべきかが、今後の課題である。日本人の外国に対する偏見をなくすための活動をする 것도大切である

## 6. 引用文献・参考文献

地域発「外国人住民との地域づくり」

## 7. 謝辞（お世話になった方）

島根県外国人地域サポーター 堀西雅亮様

出雲市立中部小学校

文部科学省大臣官房総務課広報室

文部科学省総合教育政策局国際教育課



## 「すずかけ荘の活用」

**すずかけ荘をもっと盛り上げよう！**  
**すずかけ荘の認知度を高め、地域の人たちの憩いの場にしよう。**

空き家活用A班  
空き家活用B班

### 1. 背景

- ・すずかけ荘のフリースペースを利用する人が少ない。
- ・平田高校生が利用しようと思っていない。
- ・平田地域の大人しか利用していない。
- ・外観だけではどんな場所なのか分かりにくい。

### 2. 探究の目的・意義

- ・すずかけ荘をもっと地域の人に知ってもらい、利用者数を増やす。

### 3. これまでの活動

- ・NPO法人ひらた空き家再生舎の吉岡様より話を聞く。
- ・すずかけ荘の良い点・悪い点を見つけ、活用方法や改善策を考える。
- ・平田高校生、すずかけ荘利用者へのアンケート調査、結果分析。
- ・すずかけ荘の清掃、人工芝を敷く（後日、その半分を砂利で埋めた。）、障子の貼り替え、イベントの企画・実施

### 4. 成果・発見・気付き

- ・イベントを通じて、すずかけ荘の魅力や利用方法などを伝えることができた。
- ・自分たちの身近にも地域のために利用することができる場所があることを知った。

### 5. 今後の課題

現在、すずかけ荘に行く理由があまりないので、人がたくさん集まるイベント以外で、日常的に興味を持ってもらえるような話題を作る。

また、部活動が終わってから電車で帰宅する生徒が利用しやすいように、オープンしている時間をもう少し延ばしてもらえるように提案する。

### 6. 謝辞

NPO法人 ひらた空き家再生舎の吉岡拓也様をはじめ、この活動ために協力して下さった皆様ありがとうございました。



## 「空き家活用」

空き家を復活させるために  
すずかけ荘の改善  
空き家の利用者を増やす方法

空き家活用C班  
空き家活用D班  
空き家活用E班

### 1. 背景

平田地域では、歴史的景観の残る家屋が多い反面、建物の老朽化が進んだものや空き家が多く、倒壊や廃屋化の問題がある。

### 2. 探究の目的・意義

建物を建て直すことや取り壊すことも解決手段だが、実施を行うにあたって多額の費用が発生することがこの問題の解決を難しくさせている。そのため、空き家を再生させることで、廃屋化の問題を解決し、住居を新しく作ることで、平田地域に住む人や地域の人々の交流の場を増やす。

### 3. これまでの活動

・再生を行うための空き家を一から探し、再生作業を実施することは時間的制約から難しいと判断した。そのため昨年度の先輩方が携わり再生させた空き家であるすずかけ荘を、よりよくするために整備を手伝った。

実施したこと：木冊のペンキ塗り・中庭の整備・必要なものの買い出し・建物内の整備  
・すずかけ荘を再生させるための資金を地域の方々からも支援してもらうために募金箱を作成し、設置した。

### 4. 成果・発見・気付き

新たな空き家を再生させることはできなかったが、すずかけ荘をよりよくするための活動を頑張った。庭園や部屋の内装をリニューアルしたすずかけ荘を見て、空き家の再生は不可能なことではないことを実感できた。

### 5. 今後の課題

・今回空き家の再生を進めることはできたが、新しい空き家を再生させることは膨大な時間と労力がかかることがわかった。そのため、このプロジェクトは数年単位の計画で実施する必要があることもわかった。また、建物に関する専門家の方の知識や、地域の方の協力があるとより作業がスムーズに進むとも感じた。  
・地域の人々に支援をしてもらうためにも、もっとすずかけ荘のアピールをして、存在を認知してもらう必要がある。

### 6. 謝辞

NPO 法人ひらた空き家再生舎

理事長 吉岡拓也様  
伊藤晃章様

岡田建築 岡田様  
ラピタ平田店



## 「すずかけ荘の利用者を増やすためには」

空き家活用F班

### 1. 背景

イベントスペースと居住空間（シェアハウス）からなる「すずかけ荘」が駅の近くに作られたが、あまり存在を知られておらず、利用者、入居者が少ない現状である。

### 2. 探究の目的・意義

「すずかけ荘」が空き家利用の一つのモデルとなるよう、「すずかけ荘」の利用について考える。

### 3. これまでの活動

- ・「すずかけ荘」の実地調査を行い、現状について調査した。
- ・島根県立大学の周辺のアパートの状況について、不動産業者の方にお話を聞いた。
- ・島根県立大学生にシェアハウスに関するアンケートを実施した。
- ・年末に一人暮らしの高齢者の家を訪問し、清掃を行った。

### 4. これまでの活動からの成果・発見・気付き

出雲市は他の地域と比較しても不動産の賃貸物件が多く、家賃が比較的安いいため、シェアハウスを利用しようとする人はそれほど多くはなく、すずかけ荘の利用を増やすためには、個人の利用者にターゲットを絞るのは難しいと考えられる。

高齢者の一人暮らし世帯が多いが、清掃等、家の整備や維持がお年寄りにとっては大変である。そのため家を離れる人が多く、空き家が増えているという現状がある。

### 5. 今後の課題

- ・すずかけ荘を利用したいと考える企業などを調査する。
- ・オープンスペースの利用について考える。

### 6. 謝辞

(有) 小林興産 小林孝之様

島根県立大学 出雲キャンパス

NPO法人ひらた空き家再生舎 吉岡拓也様



## 「廃校活用」

東地区・東小学校の現状について知ろう  
廃校の正体とは  
学校が子どもに与える影響と学校の理想像

廃校活用A班  
廃校活用B班  
廃校活用C班

### 1. 背景

- ・廃校になりそうな学校が増えてきている
- ・過疎化による小中学生の減少
- ・廃校の情報が少ない
- ・廃校問題に関する知識を学ぶ機会がない
- ・活用されていない廃校が多い

### 2. 探究の目的・意義

- ・廃校に至った経緯を知り、その過程での地域としての思いを学ぶ
- ・廃校について理解し、廃校の活用方法について考える

### 3. これまでの活動

- ・旧東小学校の見学
- ・東コミュニティセンター センター長様へのインタビュー
- ・出雲市教育委員会の方にインタビュー
- ・朝陽小学校の先生方にインタビュー
- ・朝陽小学校の児童にアンケート

### 4. 成果・発見・気づき

- ・年々廃校の数が増加している
- ・地域と学校に強いつながりがあった
- ・アンケートでは友達が増えたという回答がかなり多くあった。
- ・学校が変わったことで不安を抱いた児童も複数名いた。

### 5. 今後の課題

廃校に至る経緯、地域としての思い、実際に統廃合を経験した先生方や児童の思いをインタビューやアンケートを通して知ることができた。しかし、それらを知ったからこそできる活動などを考えるには至らなかった。地域の思いに寄り添った廃校の活用方法などを考えていきたい。

### 6. 謝辞

東コミュニティセンター センター長様  
出雲市教育委員会 高見様  
朝陽小学校の先生方、児童の皆様



## 1. 背景

平田地域は人が少なく、良いところがあるのに平田地域以外の人にあまり知られていない。

## 2. 探究の目的・意義

平田地域の良いところを知ってもらう

## 3. これまでの活動

(1) B班と共同で「夜のオープンスクール～平高お化け屋敷～」を企画する。

対象：中高生 会場：平田高校

内容：校舎内を回りながら、平田高校や平田地域にまつわるクイズを解いていく。

企画理由：コロナ禍で実施されることが減ったお化け屋敷も、夜の校舎を使うのであれば密閉する必要がなく、「夜の学校」ということ自体が恐怖感を醸し出すことができる。また、クイズを解きながら平田高校を知ってもらうことができる。

※しかし、参加者への安全を担保できないということから、実現できなかった。

(2) 「ひらたキッチン（平田マルシェ）」でのクイズラリーを企画

①改めて、自分たちで平田の町歩きを行う。

歴史を感じる建物や、神社やお寺が多い。若い人はあまり知らないおいしい食べ物がたくさんあることがわかる。

②クイズラリーを、食べ物を扱う店を回るものにする。

③クイズを考える。

④候補にあげた店に協力の依頼をする。

⑤マップ及びクイズの解答シートづくり。

⑥当日の運営 ・各店舗へクイズのボードを設置。

・受付をし、マップを渡す→ ゴールした人に景品を渡す。

・広報が不足していたため、ビラ配りをして参加者を募る。



## 4. 成果・発見・気付き

・当日の参加者は5組程度と少なかった。エリアが広すぎて時間に余裕がある人しか参加してもらえなかったこと、広報活動が少なかったことなどが原因だと考えられる。イベント全体にどういう人が集まりそうか想定して企画を立てる、あるいは、自分たちのやりたい企画にあったイベントに参加するなど、考える必要があった。

・景品はお菓子だったが、アレルギーを持っていた子どもがいて、景品をあげられなかった。食べ物を扱うとき、また小さな子どもを対象にするときは、アレルギーなどにも配慮しなくてはならないことに気づいた。

・「ひらたキッチン」の来場者アンケートから、平田地域の人々が来場されている。地域外の人たちに平田を知ってもらうということにはつなげられなかった。

・自分たち自身も実際に歩いてみて、これまで知らなかった平田のことを知ることができた。

## 5. 今後の課題

・対象とする年齢層を考える、短時間で行えるものにするなど、想定すべきことがたくさんある。そのためには、準備期間を確保することが重要である。

・SNSを利用したPRを行い、平田地域外の人にも知ってもらうようにする。

## 6. 謝辞

平田商工会議所 小村 孝治さん 竹下 紀子さん  
クイズラリー協力店 宇美神社 雲州平田駅 岡茂一郎商店 来間屋生姜糖本舗  
ストロベリーカフェ 風月堂 ミート松本 持田醤油店





## 1. 背景

昨年度からコロナ禍にあり、イベントの数が減少している。  
平田高校や平田地域がどんなところか、あまり知られていない。

## 2. 探究の目的・意義

イベントを開催し、参加した人に楽しんでもらうとともに、平田高校や平田地域について少しでも知ってもらいたい。

## 3. これまでの活動

(1) A班と共同で「夜のオープンスクール」を企画する。

内 容：ホラー映画を制作し、それを視聴した後、お化け屋敷に入り、平田高校を知ってもらうクイズを解きながら回る

企画理由：コロナ禍で実施されることが減ったお化け屋敷も、夜の校舎を使うのであれば密閉する必要がなく、「夜の学校」ということ自体が恐怖感を醸し出すことができる。また、クイズを解きながら平田高校を知ってもらうことができる。

※しかし、参加者への安全を担保できないということから、実現できなかった。

(2) 「ひらたキッチン」でのイベントを企画する。

11月7日(日)「ひらたキッチン」が開催され、そこにブースを出店する。

内 容：スーパーボールすくい 輪投げ (どちらも無料)

企画理由：大人向けの店が多く、子どもが楽しめるものがないので、子ども向けのイベントを企画する。

### ① 準備した物

- ・購入した物 スーパーボール ポイ ビニール袋 紙コップ 景品用の菓子
- ・製作した物 輪投げの輪 (新聞紙) ポール用のペットボトル
- ・その他 ビニールプール (大きすぎたため、当日は衣装ケースに変更)  
※景品 (菓子) の袋詰めは当日行う。

### ① 当日の運営

- ・密を避けるために、スーパーボールすくいは一度に二人までという人数制限を行う。
- ・参加者に用具や景品を渡すだけでなく、参加者が楽しめるような言葉かけなどを行う。



## 4. 成果・発見・気付き

- ① 楽しかったと言ってもらえ、子ども向けのイベントとしては成功した。
- ② 予想以上に参加者があり、嬉しい反面、行列ができてしまい待たせてしまった。2, 30人と想定していたが、100人以上の参加があった。
- ③ イベントを考える際に、対象となる年齢層や人数を考えて企画を立てる必要がある。
- ④ しっかりとした想定の上で準備をしておかないと当日慌てることになる。

## 5. 今後の課題

来場者数をなるべく正確に把握し、回転数を上げるなど行列ができないよう工夫したり、行列ができて密にならないように事前に想定したりと、しっかり事前準備に時間をかける。また、今回時間が無く、「ひらたキッチン」のPRに便乗する形しかできなかった。今後はPR方法についても検討する。

## 6. 謝辞

平田商工会議所 小村 孝治 様 竹下 紀子 様  
株式会社 Tint NOKKO



## 1. 背景(現状・課題)

愛宕山公園施設の老朽化

## 2. 探究の目的・意義

愛宕山公園をきれいにしたり、リフォームをしたりして、もっと行きたいと思ってもらえるようにすることで、来場者の増加につながり、地域の活性化に貢献できると思ったから。

## 3. これまでの活動

愛宕山公園を訪問し、所長さんに話を聞いたり園内を観察したりして、問題点や改善点を見つけた。手洗い場の汚れを落とすこと、カンガルーエリアにあるベンチのサビを落とし塗装するという活動を行った。

## 4. 成果・発見・気づき

カンガルーエリアのサビはかなりひどく、落とすのが大変だった。酢やサビ取り剤、金ブラシ、重曹などの様々なものを試した結果、重曹が一番よくサビが取れることがわかった。計画より時間がかかった。手洗い場の汚れはスポンジに水をつけて、こすると取れ、ある程度きれいになった。

## 5. 今後の課題

きれいな状態を維持するために、定期的に清掃を行うことなどを考えていく。

## 6. 謝辞

愛宕山公園所長様をはじめ、スタッフの皆様、出雲市都市建設部都市計画課公園係様、私たちの総合探究活動のために、お話を聞かせてもらうなど、様々な協力をしていただきありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



## 1. 背景

小さい頃に何度か遊びに行ったことがあったが、今回訪れてみて、建物の老朽化も進み寂しい感じがした。地域協働学習の課題として取り上げることにし、調べてみると来園者が以前より少なくなっていることが分かり、平田高校の近くにある公園を活性化したいと考えた。

## 2. 探究の目的・意義

来園者を増やすために、まず地元の人に公園を身近なものに感じてほしい。また、地域以外の人にも知ってもらうために、キャラクターを考案することにした。

## 3. これまでの活動

ゆるキャラをつくるために職員のみなさんに質問をした。回答をもとにキャラクターの性格やイメージカラーなどコンセプトを決め、原画を作成した。原画をもとにゆるキャラ作成の際にはデザイナーの方の協力をいただき、2種類のゆるキャラが完成した。

## 4. 成果・発見・気づき

公園の動物や、施設のことについて改めて知るきっかけになった。協力してアイデアを出し、それがだんだん形になっていくおもしろさを体験することができた。

## 5. 今後の課題

まだ名前が無いので命名すること。完成したゆるキャラを使って缶バッジ、キーホルダーなどのグッズを作り、販売する。売上金で愛宕山公園の環境整備ができたらと考える。

## 6. 引用文献・参考文献

「簡単なゆるキャラの作り方のコツって？人気マスコットキャラ作りのポイントと依頼先・ココナラマガジン (coconala.com)」

## 7. 謝辞

愛宕山公園所長をはじめスタッフの皆様、出雲市都市建設部都市計画課公園係のみなさま、株式会社あしたの為のデザイン様・デザイナーの福島様。私たちのために、お話いただいたこと、様々なアドバイスをいただいたこと、ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



# 「捨て猫をゼロにするために」

愛宕山C班

## 1. 背景

捨て猫がたくさんいて、愛宕山公園は困っている。無責任なエサやりをする人もいる。

## 2. 探究の目的・意義

愛宕山公園の捨て猫を減らし、公園の被害を減らすとともに猫たちの生命を守る。

## 3. これまでの活動

- ・愛宕山へ行って捨て猫の状況を確認した。
- ・啓発ポスターと動画を作った。
- ・里親募集のチラシを作った。

## 4. 成果・発見・気づき

捨て猫の多さと、被害の身近さと、被害の甚大さに気づくことができた。

ポスターや動画を作成するときの、誰に・何を伝えるのかをまとめることの難しさや、私たちが伝えたいことをどのようにしたら伝わるのかを考えていく過程の難しさがわかった。

## 5. 今後の課題

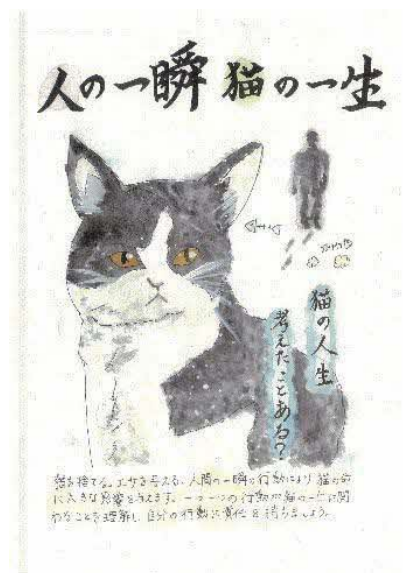
- ・ポスターの見直し・提出
- ・動画の配信

## 6. 謝辞

愛宕山公園

出雲市役所 出雲市都市建設部 都市計画課

株式会社 あしたの為のデザイン 布野 カツヒデ 様



## 2年生 県内企業見学

### 1. 目的

- ・名古屋研修では、名古屋市内の企業を見学する研修が予定されており、その代替として、昨年度の2月に県内企業見学を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、企業側の受入が難しく、今年度に再度計画した。
- ・企業での業務内容や製造過程、職場環境等の見学を通して、職業や自己の在り方・生き方についての自覚を深め、将来の進路選択を考える機会とする。

2. 日時 令和3年7月13日（火）1～7限（8：40～）

3. 内容 8班編成（1クラス2班）で、各班、午前1社・午後1社の2社を訪問する。

4. 見学企業（株）ダイハツメタル出雲工場、島根電工（株）、出雲市役所、出雲市消防本部、山陰建設工業（株）、（有）喜島塗装、（株）さんびる、（株）ミック、（株）スター精機出雲工場、ヒラタ精機（株） 以上10社

### 5. 生徒の感想より

- ・どの仕事にも共通して、コミュニケーション力やマネジメント力、柔軟性が大切になってくると思いました。「いい会社」を作るために自分自身には何ができるか、何をすべきなのかを考えるようにしたいと思いました。（山陰建設工業（株））
- ・出雲市の魅力や人口の問題など今まで知らなかったことに気づくことができました。特に、産業と農業で島根県内1位の産業があるのを初めて知って誇らしいと思いました。（出雲市役所）
- ・お客様以前に社員の方とその家族を一番大切にしているという考えを聞き、すごく魅力を感じました。（島根電工（株））
- ・学校で勉強している時間よりも、仕事に就いて仕事をする時間が長いので、どんな職業を選ぶか大切だと思いました。私は医療系の仕事に就きたいと考えていますが、“誰かのために”という気持ちが重要だと思います。（喜島塗装）
- ・人を喜ばせることで仕事に価値が出る、と言っておられました。私も JRC 部でボランティア活動をしているときに、「ありがとう」「お疲れさま」など何気ない一言で救われる場面があるので、とても共感しました。（喜島塗装）

## 2年生 島根県立大学訪問・出張講義

1. 目的
  - ・名古屋研修では、名古屋市内の大学を見学する研修が予定されており、その代替として、島根県立大学の3キャンパスへの訪問研修と学部別出張講義を開催する。
  - ・大学での模擬授業体験、施設の見学、現役大学生の体験談を通して、自己の在り方・生き方についての自覚を深め、将来の進路選択を考える機会とする。
2. 日時 9月16日(木) 8:40~16:20
3. 概要 島根県立大学3キャンパス(浜田、松江、出雲)のいずれか1カ所を訪問する。  
[大学訪問内容]・模擬授業(ミニ講義) ・先輩による大学生生活紹介  
・施設設備見学  
松江、出雲キャンパスを訪問する生徒は、訪問に加えて校内で開催する大学説明会にも参加する。  
[説明会参加大学]  
(対面実施) 島根大学 生物資源科学部、総合理工学部  
(オンライン実施) 広島文教大学、広島修道大学、広島国際大学、広島工業大学  
※島根大学以外の講師依頼についてはキッズコーポレーションに委託



### 3年生総探 「未来予想図Ⅲ」

1. 目的
- ・ 1、2年次の活動を整理し、自分の進路とつなげて考える。
  - ・ 自分の意見や考えを聞き手に分かりやすく伝えることを目指して発表する。
  - ・ 聞き手にとって分かりやすく、聞き手が興味を抱く伝え方について考える。

2. 内容

- ・ 校内発表会発表準備（5時間）

**面接試験のプレゼンテーションを想定し、パワーポイント資料を作成し、発表準備をする。**

- ・ 1、2年次の「総合的な探究の時間」の学習内容を振り返る。
- ・ 学習したことを自分自身の進路と繋げ、パワーポイント資料を作成する。
- ・ 発表に向けて原稿作成、練習を行う。

- ・ 校内発表会 6月15日（火）6・7限

**全員の生徒が8会場（クラス混在）に分かれ、パワーポイントを利用して面接試験を想定したプレゼンテーションを行う。**

- ・ 一人4分の発表とし、質問時間は設けない。
- ・ 他の生徒の発表を聴き、アドバイスシートを記入する。
- ・ 会場毎に優秀発表を選考する。

- ・ 校内発表会振り返り（1時間）

**自分自身の発表を振り返るとともに、優秀発表を聴き、それに対する良い点、改善すべき点を出し合うことによって、よりよいプレゼンテーションについて考える。**

- ・ 県立大学生への発表 7月2日（金）5限

**校内発表会で選考された生徒が、島根県立大学の学生に対して発表し、学生が面接官となり、質疑応答を行う。**

- ・ 4会場（各クラス）を島根県立大学の学生グループとオンラインでつなぎ、各会場3名の生徒がプレゼンテーションを行う。
- ・ 島根県立大学の学生が面接官となりプレゼンテーション（4分）を聴いた後、その内容等について質疑応答（8分）を行う。
- ・ 他の生徒は、模擬面接を聴く。
- ・ パワーポイント資料、発表内容、発表の仕方等について、学生が講評する。



## 「総合的な探究の時間」での図書館活用

### 【1年生 探究学習】

#### ●ガイダンス（4月）

探究学習に向けて柔軟な発想ができるようにしておきたい。手始めにブレインストーミングとK J法に取り組む。

#### <用意するもの>

- ・付箋ブロック（2.5cm×7.5cm） …大量
- ・模造紙（A3のコピー用紙2枚を貼り合わせたもの） …各班に1枚
- ・ワークシート（次ページ参照） …各班に1枚

#### <授業の流れ>

##### ①ブレインストーミング

- ・4人1組の班をつくる。

「体育館の天井に触れるには」というテーマについて、各自が考えたアイデアを付箋に記入する。（5分）

- ・個人のアイデアが出尽くしたと感じても「無理矢理にでもアイデアを出す」「他の人が出したアイデアを少し変えたり、自分と他の人のアイデアを組み合わせたりすることにより、より多くのアイデアを出す。他の人の意見を否定しない。（5分）

##### ②K J法+α

- ・内容的に近いアイデアが書かれた付箋を集めてグループをつくり、付箋を模造紙に貼り直す。それぞれのグループに見出し（タイトル）をつける。（3分）
- ・実現させたいアイデア＝「ナンバー1アイデア」を一つ選び、そのアイデアのプラス面（メリット）とマイナス面（デメリット）を考えてワークシートに記入する。また、ナンバー1アイデアには選ばれなかったが、ぜひ披露したいアイデア＝「オンリー1アイデア」を1つ選ぶ。（5分）

##### ③まとめ

考え方次第で「メリットがデメリットに、デメリットがメリットになり得る」「非現実的に思えるようなアイデアも、最高のアイデアに変わり得る」ことを説明する。

#### <所見>

柔軟な発想ができる生徒が多く、個人作業・班活動ともに充実した時間となった。「体育館のミニチュアをつくって天井を触る」「好きな人に天井に上ってもらい、愛の力で何とか



触る」といったアイデアを出した生徒もおり、「(実物の体育館の屋根を触れとは指示していないため) 指示されていない点については自由に想像を巡らせてよい」「人を動かすのは感情である」といった補足説明ができた。

<ワークシート：ナンバー1アイデアのメリットとデメリット>

班 組	ナンバー1アイデア	- デメリット (マイナス面)		
		+ メリット (プラス面)		
				(おまけ) オンリー1アイデア

### ●探究について①（8月）

探究について①～③では『課題研究メソッド Start Book：探究活動の土台づくりのために』（啓林館 2019）をテキストとして授業展開を行う。

9月に行われる文化祭で各クラスの代表がプレゼンテーションを行うため、テキストの掲載順とは異なるが、「信頼のおける情報源」「引用のルール」「PowerPointのスライド作成やプレゼンテーションのコツ」を先に説明する。

<用意したもの>

- ・ワークシート
- ・プリント「引用・参考文献リストの書き方」

### ●探究について②（9月）

テキストに沿って情報収集・情報分析について説明しつつ、いくつかの個人作業に取り組ませる。また、テキストに記載されている「言葉の意味・定義を調べる」課題、および「新聞記事を用いて情報をまとめる」課題を宿題とする。

### ●探究について③（9月）

大リーガーの大谷翔平投手が高校1年時に目標達成のために作成したマンダラートについて説明した後、テーマ項目を一つ選んでマンダラートを作成する。次に、作成したマンダラートを参照しながら、テーマ項目に関する「問い」を立てる。

<用意したもの>

- ・大谷翔平投手が作成したマンダラート
- ・ワークシート①マンダラートを作成する
- ・ワークシート②「問い」を立てる（次ページ参照）

<探究について①～③についての所見>

今年度使用したテキストは、本校生にはやや難易度が高いように感じられたが、探究学習の拠り所となる資料が常に生徒の手元にあるという心強さがあった。テキスト中の課題では、文章をビジュアル化する作業に苦勞した生徒が多く見受けられた一方で、これを行ったことで文章の構造を理解する力がついたことを実感できたという感想も得られた。

また、マンダラートを使用したアイデア出しと「問い」を立てる作業を行ったことが、後の個人探究のテーマ決めに役立ったと感じる。

反省点として、①の授業内容が文化祭でのプレゼンテーションに必ずしも役立ったとは思えず、授業展開の順番について再考する必要性を感じた。

<ワークシート：テーマ項目に関する「問い」を立てる>

平田高等学校 1 年生 総合的な探究の時間  
探究について③ 2021/09/21

2. テーマ項目に関する「問い」を立てよう。

「問い」の種類		「問い」
言葉の意味や定義 (～の意味は？～の定義は？)	→	
原因 (なぜ～？)	→	
信ぴょう性 (～って本当？)	→	
比較 (～と比べてどうか？)	→	
先行研究・先行事例／経緯 (これまでどのように？)	→	
影響 (今後どのような影響が起こるのか？)	→	
時間 (いつから？いつまで？)	→	
空間 (どこで？)	→	
主体 (誰が？何が？)	→	
状況 (どのような？)	→	
方法 (どうやって？)	→	
	→	
	→	
	→	

## ●個人探究活動（11月～）

各自が探究テーマを決め、情報の収集・整理を行う。

### レファレンス質問と資料提供の例

Q. 出雲駅伝はなぜ出雲市に誘致されたのか。大会が始まった経緯を知りたい。

・『出雲全日本大学選抜駅伝競走 20 年史』

（出雲全日本大学選抜駅伝競走組織委員会、2009） ※平田図書館より借受

・『出雲市五十年誌』（永田滋史ほか編纂、出雲市役所、1992）

Q. 生活保護制度の現状と課題を知りたい。どうすれば本当に困っている人を救えるか。

・『生活保護と貧困対策』（岩永理恵ほか著、有斐閣、2018）

※県立図書館より借受、後に本校でも購入

## 【2年生 地域協働学習】

班別探究活動の際、必要に応じて司書に資料検索・提供を依頼する。

### レファレンス質問と資料提供の例

Q. 歌舞伎と盆踊りの関係について知りたい。

・『民俗小事典神事と芸能』（神田より子ほか編、吉川弘文館、2010）

・『祭・芸能・行事大辞典 下』（小島美子ほか監修、朝倉書店、2009）

Q. 県内の各市町村の出産・子育て支援策について知りたい。

➡調べ方が分かれば生徒が自力で調べられそうだったため、調べ方のコツを記した  
パスファインダーを作成し、該当班に配布した。

## <所見>

生徒の情報探索行動には、以下の傾向が見られた。

①インターネット検索に頼りがちだが、インターネットを使いこなせない

「ネット検索でどんな情報も手に入る」と思っている生徒は多い。その反面、検索しても知りたい情報にたどり着けなかった場合、その情報は「存在しない」と判断してしまう。必要な情報にたどり着くためのインターネット検索の基本を身につけさせると同時に、紙媒体で調べる方が有効な場合もあることを理解させたい。

②大まかなキーワードで調べるため、細かい情報にたどり着けない

この理由として、探究の方向性が定まっていないことと、自分の本当に知りたいことを言語化できないことが考えられる。的外れな資料を提供することのないよう、司書のレファレンスインタビュー技術の一層の向上が求められる。

### 県内大学との連携

月日	内容	形式	講師	対象
6/1	地域活性化に向けた大学と地域との協働による探究の方法	講演会	島根県立大学 地域施策学部 教授 久保田典男氏	2年生 全員
7/1	面接試験を想定した「進路探究発表会」	発表会	島根県立大学 地域文化学部 木内ゼミ、竹田ゼミ、工藤ゼミ、 小南ゼミ所属の大学生	3年生 全員 (代表発表12名、 聴衆137名)
7/20	地域協働学習「地域医療班」の探究計画についてのアドバイス	授業への参加	島根県立大学 看護栄養学部 教授 梶谷みゆき氏	2年生 地域医療班 11名
8/10	地域協働学習「地域医療班」の探究計画についてのアドバイス	大学訪問	島根県立大学 看護栄養学部 教授 梶谷みゆき氏 助教 日野雅洋氏	2年生 地域医療班 12名
9/16	学問分野に関するミニ講義、学部説明、施設見学、大学生との交流他	大学訪問	島根県立大学 浜田キャンパス、 出雲キャンパス、松江キャンパス の教職員、大学生	2年生 全員
	学問分野に関するミニ講義、学部説明	出張講義	島根大学 生物資源科学部 教授 松本真悟氏 総合理工学部 教授 小俣光司氏	2年生 51名
9/22	キャリア講演会	講演会	島根大学 地域協創本部 准教授 丸山実子氏	1年生 全員
10/27	職業人講演会	講演会	島根県立大学 地域施策学部 准教授 田中輝美氏	1年生 全員
11/2	平田高校地域協働フォーラム 2021・秋	発表会の参観	島根県立大学 看護栄養学部 教授 梶谷みゆき氏 助教 日野雅洋氏 教務学生課長 坂田栄一郎氏	2年生 地域医療班 11名
12/7	地域協働学習「スイーツ開発、 農業・小豆班」の中間報告につ いてのアドバイス	授業への参加	島根県立大学 看護栄養学部 准教授 籠橋有紀子氏	2年生 スイーツ開発 農業・小豆班 29名
12/17	島根大学出張講義	出張講義	島根大学 生物資源科学部 教授 丸田隆典氏 准教授 高橋絵里奈氏	1年生 全員
3/9	平田高校地域協働フォーラム 2022・春	発表会の参観	島根県立大学 出雲キャンパス 学長代行 山下一也氏	1、2年生 全員

## ルーブリック開発

1. 目的 「総合的な探究の時間」のルーブリックの開発にあたり、ルーブリックに関する知識を深める。また、ルーブリック開発に関わることで、教職員間で育てたい生徒の姿の共通認識を持って指導に当たることができるようになることを目的とする。
2. 日時 令和3年10月8日（金）15:50～17:00
3. 講師 島根大学 大学教育センター 特任助教 原 周右 氏
4. 会場 プラタナス記念館2F
5. 対象者 教職員希望者12名
6. 事前準備 ルーブリックに関する動画視聴

### 【特に参考とした点】

<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>実際の生徒の具体的な姿から開発を始める。</b> ※課題に取り組む前の生徒の姿と課題の後に到達が望まれる姿を考える。 ※モデルとして特定の生徒に注目するとよい。</li><li>• <b>作ることが目的ではなく、使えるものにする。</b> ※観点は1～2、尺度はまずは3段階で十分である。 ※多すぎると見とりが難しくなる。つけたい力は何であるのかの事前協議を十分に行う必要がある。（ルーブリック開発に対話は不可欠である。）そして、共有したつけたい力に特化して作成する。 ※必要に応じて改訂していけばよい。</li><li>• <b>SBIフレームを活用する。</b> 【基本の表現様式】 学習対象・学習活動・学修場面 ⇒～について、～において 資質能力の主要部分 ⇒～しながら、～して 生徒の行為、影響 ⇒～している、～できている</li></ul>	<table border="1"><tr><td><b>S</b></td><td>Situation（状況） 具体的にいつ、どこで起きたか</td></tr><tr><td><b>B</b></td><td>Behavior（行動） どのような行動があったのか</td></tr><tr><td><b>I</b></td><td>Impact（影響） 行動によって生まれた影響や結果、感想</td></tr></table>	<b>S</b>	Situation（状況） 具体的にいつ、どこで起きたか	<b>B</b>	Behavior（行動） どのような行動があったのか	<b>I</b>	Impact（影響） 行動によって生まれた影響や結果、感想
<b>S</b>	Situation（状況） 具体的にいつ、どこで起きたか						
<b>B</b>	Behavior（行動） どのような行動があったのか						
<b>I</b>	Impact（影響） 行動によって生まれた影響や結果、感想						

【研修会受講以前に作成した地域協働学習ルーブリック案】

	自立		協同		創造	
	地域と関わる	主体的に行動する	他者を受け入れる	自分の考えを伝える	論理的に考える	新しい視点やアイデアをつくり出す
A	地域の課題に関心があり、自ら調べたり、積極的に地域の中で活動することができる。	課題を進展させながら、自らやるべきことを見つけ、行動することができる。	自分とは異なる考え方や価値観を受け入れ、合意形成を図ることができる。	意見や価値感の違いにも配慮しながら、自分の考えを明確に伝えることができる。	現状の課題・問題が発見できており、それに対する分析をしながら解決策を考えることができる。	地域社会、自分の現状や未来に対して見出した価値を他者と共有することができる。
B	地域の課題に関心があり、地域の中で活動することができる。	課題に対して、自分なりに考えて行動できる。	自分とは異なる考え方や価値感の違いを受け入れることができる。	自分の意見を明確に相手に伝えることができる。	現状の課題・問題を見出し、その分析が十分できる。	地域社会、自分の現状や未来に対して、前向きな価値を見いだすことができている。
C	地域と関わることに関心がある。	課題に対して、自分なりに考えようとする意欲はある。	自分とは異なる考え方や価値感を聞くことはできる。	自分の意見が相手に伝わるように働きかけることができる。	現状の課題・問題が発見できている。	地域や自分の現状、未来について、何か価値を見いだそうとしている。
D	地域に関わることにあまり関心がない。	具体的な指示がなければ、考えたり、行動したりできない。	自分とは異なる考え方や価値観を持つ人の意見に耳を傾けることができない。	自分の考えを相手に伝えることにためらいがある。	現状の課題・問題が発見できない。	地域や自分の現状について、何の価値も無いと感じている。

【研修会後に完成させたルーブリック】

(テーマ、概要)		1年生「総合的な探究の時間」				
生徒が自分自身や地域について理解を深めたり、進路について学んだりすることにより、生涯にわたるキャリア意識を醸成する。						
学力要素	資質能力	段階				
		D	C	B	A	S
学びに向かう力・人間性等	地域と関わる力	Cに到達していない。	地域と関わることに関心を持つことができる。	地域と関わることに関心を持ち、課題について調べることができる。	地域の課題に関心があり、調べたり、地域の中で活動したりすることができる。	
	自分のキャリアについて考える力	Cに到達していない。	高校卒業後の進路に関心を持ち、具体的な指示を受ければ行動することができる。	高校卒業後の進路に関心を持ち、自ら調べながら目標を設定することができる。	生き方について考え、目標を実現するために自ら調べたり、行動したりすることができる。	
(テーマ、概要)		2年生「総合的な探究の時間」				
生徒が主体的・協働的に行動し、地域での活動を通して、自分の将来について考えることができる。						
学力要素	資質能力	段階				
		D	C	B	A	S
学びに向かう力・人間性等	主体的に行動する力 ただ指示に従うのではなく、自分の意志・判断に基づいて行動できる力。	Cに到達していない。	地域協働学習において、具体的な指示を受ければ、活動することができる。	地域協働学習において、課題に対して何をしたらよいかを自分なりに考えながら活動することができる。	地域協働学習において、活動を進める中で新たな問題・課題を発見し、解決に向けて進んで行動することができる。	
	協働する力 同じ目的のために、対等な立場で協力できる力。	Cに到達していない。	グループ活動において、他者の意見に耳を傾けながら協力することができる。	グループ活動において、他者の意見に耳を傾け、自分の意見も明確に伝えながら協力することができる。	グループ活動において、お互いの得意なことを生かしながら、新たなアイデアを生み出したり、自分以外の視点で物事を考えたりできる。	
(テーマ、概要)		3年生「総合的な探究の時間」				
これまでに学習した地域課題や今後の進路についてプレゼンテーション資料を作成し、聞き手に分かりやすく伝える。						
学力要素	資質能力	段階				
		D	C	B	A	S
思考力・表現力・判断力	表現力 自分の考えや思考を他者に分かりやすく伝えることができる力	Cに到達していない。	プレゼンテーション資料を作成し、自分の意見を聞き手に伝えることができる。	効果的なプレゼンテーション資料の作成や、話し方の工夫により、自分の意見を明確に相手に伝えることができる。	効果的なプレゼンテーション方法をを用い、聞き手の価値感にも配慮しながら、自分の考えを明確に伝え、聞き手の共感を引き出すことができる。	

## 地域協働学習3年間の変遷

### 1. 令和元年度・2年度の取り組み

クラス毎にテーマを与え、具体的な内容のある程度示した上で地域での活動を行った。

(令和元年度)

テーマ・活動形態等

2-1 (6班)	2-2 (3班)	2-3 (6班)	2-4 (6班)
地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～	多文化共生社会の推進	ファン人口・交流人口の増加 ～木綿街道・本町商店街の活性化～	
<取り組むこと> ・新商品試作 ・あずきの種播き見学 ・イベントでの新商品販売 ・あずき農場観察等	<取り組むこと> ・交流会企画立案 ・ブラジル文化調べ ・平田在住外国人調査	<取り組むこと> ・駅サイトまつり全員参加 ・駅サイト ・木綿街道活性化	<取り組むこと> ・平田YEGイベント ・本町商店街活性化 ・人生ゲーム

※商工会議所から、4名の方に各クラスの授業に参加していただいた。

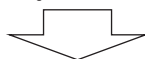
(令和2年度)

2-1 (3班)	2-2 (3班)	2-3 (3班)	2-4 (3班)
地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～	多文化共生社会の推進 ～外国人が住みやすい街づくり～	ファン人口・交流人口の増加 ～木綿街道・本町商店街の活性化～	
<取り組むこと> ・商品PR ・基礎研究	<取り組むこと> ・交流会企画立案 ・異文化理解 (幼児・小学校) ・受入体制 (行政・地域)	<取り組むこと> ・木綿街道活性化 ・木綿街道立体模型	<取り組むこと> ・一畑電車を利用した活性化 (平田ウイングの活用) ・本町商店街活性化

※商工会議所から、2名の方に各クラスの授業に参加していただいた。

### 【令和元年度・2年度の課題】

- ・クラスごとにテーマが決まっていたため、自主的な活動になりにくかった。
- ・ある程度の計画が示されていたため、生徒が主体的に活動内容を考えて、探究していく段階にまでは深めることが難しかった。
- ・各班の人数が多かったため、活動に参加していない生徒や、自ら考えず、指示されたことのみ協力する生徒がいた。
- ・主として副担任が授業を担当するため、副担任の負担が非常に大きい。
- ・活動時間が足りない。



### 【令和3年度】

- ・生徒が選択したテーマをもとに、クラスを解体して班編制を行った。
- ・活動の最初に、ミッションプランナーの方に指導をしていただいた上で、生徒たち自身に何をやってみたいか考えさせた。
- ・1班の人数を少なく設定した。
- ・副担任のみではなく、学年会全体で授業を担当した。
- ・班別活動を通年とし(令和2年度までは4月から11月のフォーラムまで)、秋フォーラムは中間発表、春フォーラムを成果発表とした。



## 2. 令和3年度テーマ選択・班編制について

- ・9つのテーマから、生徒が選び、クラスを越えて班編制を行った。

### ～2年生地域協働学習テーマ～

農業・小豆 船川 スイーツ開発 地域医療 多文化共生 空き家廃校利用  
イベント 愛宕山 文化伝承

**※商工会議所から2名の派遣をいただき、イベント班の指導をお願いした。**

- ・班ごとに活動内容を決定させた。
- ・1班の人数を概ね6人までに抑えた。全体で29班を構成した。

### 【変更によるメリット】

- ・テーマを各自が選択することにより、これまでと比較すると自主的に活動できる生徒の数が増加している。
- ・クラスの枠を外したことにより、生徒間の新たな人間関係構築の場となっている。
- ・学年全体で指導し、担当する教員が増えたことによって、一人あたりの負担は減少した。

### 【問題点】

- ・テーマ数、班数が増えたために、外に出て活動する際に担当教員が不足している。
- ・班の数が増え、内容も班毎に決めているため、各班の活動内容に合わせたミッションプランナーの紹介が難しくなった。
- ・主として担当する教員が増えたために（4人→13人）打合せ会を持つことが難しくなった。  
→毎時ごとの指導案や連絡プリントにより対応
- ・活動内容をこちらから提示しないと、生徒たち自身で考えることが難しい。生徒の自主性を大切にしつつ、大人が適切なアドバイスを与えながら伴走して行く必要がある。  
→研修の必要性
- ・学年一斉授業のため、教室やパソコン使用に制約がある。

## 3. 今後の課題・展望

・令和元年度・2年度については、地域協働学習における「地域との協働」を主軸におき、ある程度の活動の筋道を想定して、教員主導でミッションプランナーを紹介した。今後は、「地域との協働」をベースとし、商工会議所をはじめとする地域のご支援をいただきながら、生徒が自ら課題を設定し、深めていく「探究」の形にシフトして行く必要がある。

### 探究的な学びとは？

社会や生活と自身の関わりの中から自ら課題を設定し、仮説を立て、探究のサイクルを回しながら根拠を持って自分なりの考えを導き出す学び

よりよい社会の実現を目指す態度を育てる



## 4. 令和4年度へ向けた改善点 ～平田高校における持続可能な指導へ～

- ・令和3年度はテーマを与えて生徒に選ばせ、クラスを解体して希望者ごとの班編制をしたが、令和4年度はクラス内で班編成を行い、班ごとの話し合いでテーマを決めさせる予定である。  
→平素の授業は原則としてテーマごとに分かれて学年一斉に行うが、必要に応じてクラス別の展開も可能にする。  
→【課題】探究的な要素は充実するが、ミッションプランナーの紹介などを行う際に教員の支援がこれまで以上に必要である。…教員研修の充実が不可欠
- ・今年度と同様にテーマごとに学年部の担当者をつける。ただし、必要時にサポートする役割として、すべての先生に協力依頼することを検討。
- ・令和4年度は中間発表の時期を少し前倒しする予定である。  
→中間発表をすることにより、生徒が活動内容を整理できる。また、教員は生徒の考えを掬い取った上でミッションプランナーを紹介し、後半の活動につなげることができる。

## 平田高校地域協働学習に寄せて 平田商工会議所

2018（H30）年に創立 70 周年を迎えた平田商工会議所（以下「当所」とする）では、将来若者が住みたいと思える魅力ある平田地域にするため、鮭が生まれ育った川に帰ってくる様子「母川回帰（ぼせんかいき）」をテーマに掲げ、地域づくりへの若者参加を推し進めているところです。その中でも、管内唯一の高等学校である平田高校とは同年、連携協力に関する協定書を交わし、平田地域の活性化事業に様々なシーンで協働しています。

特に平田高校が 2019（R1）年度から文部科学省「地域との協働による高等学校教育推進事業」で取り組んでいる地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」は、正に母川回帰を体現しようとするものであり、平田にイノベーションを起こす人材を育てる使命（ミッション）を有していると考えています。

かつて大半が地元から進学した平田高校には現在、平田地域出身者は 3 割ほどで、地域外から通う大半の生徒は、平田地域の地理、歴史、産業、人、魅力、課題等をあまり知らない状況です。

そこで当所は、情報や人脈、地域産業との関わりといったリソースを提供するミッションコーディネーター（MC）として、4 年間に亘り高校と地域のつなぎ役（フィールドワーク支援やミッションプランナー（MP）の選定等）を務めてきました。

一方、平田高校では、2018（H30）年に当所が策定した「平田未来ビジョン」に掲げる重点テーマ「交流人口・ファン人口から定住」「好立地を活かす」「光る地域資源」「人を活かす」などに対し、高校としても「ファン人口・交流人口の増加策」「地域ブランドの創出」「多文化共生社会の推進」という 3 つのミッションを通して掘り下げ、毎秋地域住民に公開して行われるフォーラムでの発表で提案やアイデアを出し合っています。こうした取組を通じて平田高校と当所、平田地域は互いを高め合う WinWin の関係が醸成されつつあります。

その流れを加速するため当所では、フォーラムで発表される生徒の提案、アイデアを具現化する企業や団体を支援する「平田高校・夢実現化事業」を 2020（R2）年に立ち上げました。既に地元産あずきを使ったパウンドケーキの商品化やパッケージデザイン制作、駅前の空き家をリノベーションしたフリースペースの開設、木綿街道で癒しの時間・空間を来街者に提供するコンサートが開催される等、生徒のアイデアが“カタチ”（現実）になった事業もあり、生徒のモチベーションや地域愛がさらにアップし、将来の地域（母川）回帰につながっていくことを期待しています。

これまでの取組を通じて当所が考える課題としては、①生徒の提案はともすれば予定調和に流れがち、②学習の評価尺度が複雑で地域との共有が難しい、③学校とコンソーシアムのコミュニケーション不足、④教職員によって地域との関わりに温度差が感じられる、などがあげられます。

③④についてはコロナ禍で濃密なコミュニケーションや現場関与が困難になった面があり、その結果が②にもつながったとも言えます。当所もここ 2 年コロナ禍での対応に追われ、同学習への関与を低下させざるを得なかったことは残念なことでした。

現在、急速に県内各地で地域との協働、地域課題解決への取組が進んでいるように見受けられます。平田高校はそのトップランナーとして、さらに地に足を着けると同時に、ときに先鋭的な地域協働が進むことを期待しています。

前述の「平田未来ビジョン」では、めざす一つに「若者を育むまち」を掲げ、平田高校生をはじめ平田地域に関わる若者を育む「孵卵器」としてのまち造りを目指しています。地域人材の育成は長い時間が必要で、受け皿となる平田地域全体の積極性や寛容性といった雰囲気づくりも欠かせません。

今後は、さらに連携を深めながら平田地域ならではの高校と地域の共生共創をめざし、当所も引き続き平田高校への伴走支援や持続可能な活動を行っていきます。

**「平田高校 地域協働フォーラム 2021・秋」**

1. 日時 11月2日（火） 12：25～15：25
2. 参加者 全校生徒、教職員、コンソーシアム関係団体と運営指導委員、ミッションプランナー
3. 内容

(1) 2年生地域協働学習 班別探究活動の中間発表 12：50～13：55

班	発表テーマ
農業 A	地元の野菜のおいしさを広める
農業 B	柿を広める
農業 C	ひらた野菜を知ってもらい、地域活性化を目指す
小豆	あずきスイーツを作ろう～若者人気を目指して～
文化伝承	689年続く伝統芸能「河下盆踊り」
船川 A	船川を大切にしていますか？
船川 B	釣り人を増やそう！
船川 C	町に活気を出そう
スイーツ A	木綿街道人口増加作戦
スイーツ B	スイーツで木綿街道を活性化
スイーツ C	文吉たまきのスイーツ開発
地域医療 A	健康寿命を伸ばすには
地域医療 B	子供を産み育てやすい環境とは何か
地域医療 C	健康診断に来る人を増やす方法
多文化共生	外国籍の子供たちのために私たちができること
空き家活用 A	すずかけ荘をもっと盛り上げよう！
空き家活用 B	すずかけ荘の利用状況を把握し、平田地域での認知度を高めよう
空き家活用 C	空き家を復活させるために
空き家活用 D	すずかけ荘の改善
空き家活用 E	空き家の利用者を増やす方法
空き家活用 F	すずかけ荘の利用者を増やすためには
廃校活用 A	東小学校をきれいにしよう
廃校活用 B	廃校に人を集める方法
廃校活用 C	平田に住む人を増やして、廃校をもう一回使う学校にする
イベント A	意外と知らない平田の町
イベント B	平田の町を盛り上げるために
愛宕山 A	愛宕山を活用した地域の活性化
愛宕山 B	ゆるキャラで愛宕山を活性化
愛宕山 C	捨て猫をゼロにする

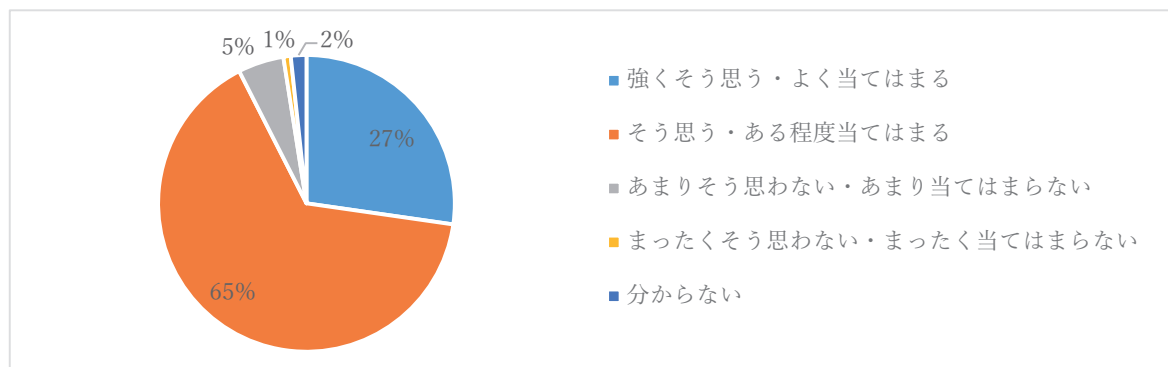
(2) 基調講演 【体育館】 14：10～15：25

講師 コミュニティデザイナー 山崎 亮（やまざき りょう）氏

#### 4. 事後アンケート結果+生徒の感想（抜粋）

<1年生>

設問1 2年生の成果発表が、今後の学習を進めていく上で参考になりましたか。



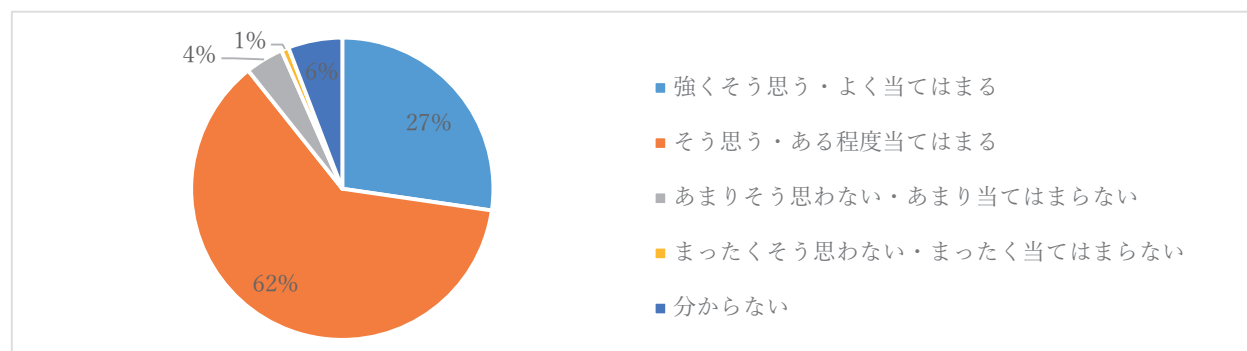
・様々な視点から地域の問題点に着目していて、多くの切り口から考えていて今後の参考になりました。

・2年生の成果発表を聞いて身近にはこんなにもたくさんの課題があるのだなと思いました。その課題解決のためにも自分にもできることを進んでやりたいと思いました。

・どの班も分かりやすく発表してくれてとても分かりやすかったです。聞く中で疑問やこうしたらいいのではないかなど、自分で考えながら聞くことができ、これからは活かせるなと思いました。

・自分の興味のあるスイーツについての話がとても楽しく、かつ来年度の参考になるような話で、関心を持ちながら聞くことができました。農業についての話で、弁当を作るということをしてもらったのですが、オムライス、サラダはいいと思うのですがもう少し費用を抑えたいのなら、グラタンの部分を小さいハンバーグやウインナーにするなど、野菜を使うことが目的だとは思いますが、少しの妥協も必要かなと思いました。でも、話の内容自体はとても面白く、地域の野菜を知ってもらうために弁当を作るという発想はとてもいいと思いました。

設問2 山崎亮さんの講演会が、今後の学習を進めていく上で参考になりましたか。



・地域の方との関わりが沢山あってとても楽しい活動をされているなと思いました。私も地域と関わるような活動が今後できたらと思いました。

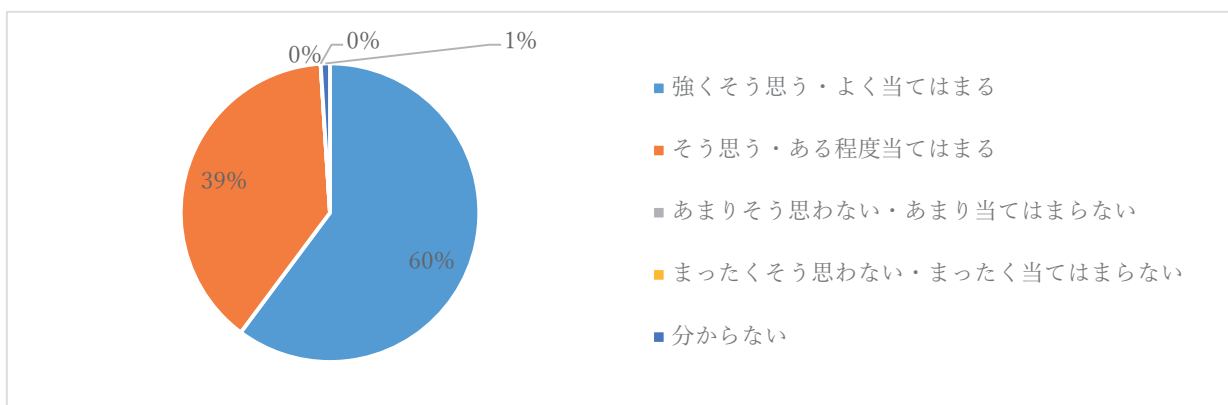
・空き家をどう活用していくかなどの問題に取り組んでおられて凄いなと思いました。僕達も来年やるので本気で取り組みたいです。

・地域のことを理解するためには一度外に出て学ぶことが大切だと知りました。施設を利用する人と一緒に考えてつくるといったやり方が素晴らしいなと思いました。紹介された地域の人達も温かいなと思いました。

・コミュニティデザイナーという仕事を初めて聞きました。地域の人達が自分達の力で公園を盛り上げている草津川のお話を聞いて、市民一人一人が地域の活動に参加することの大切さがわかりました。

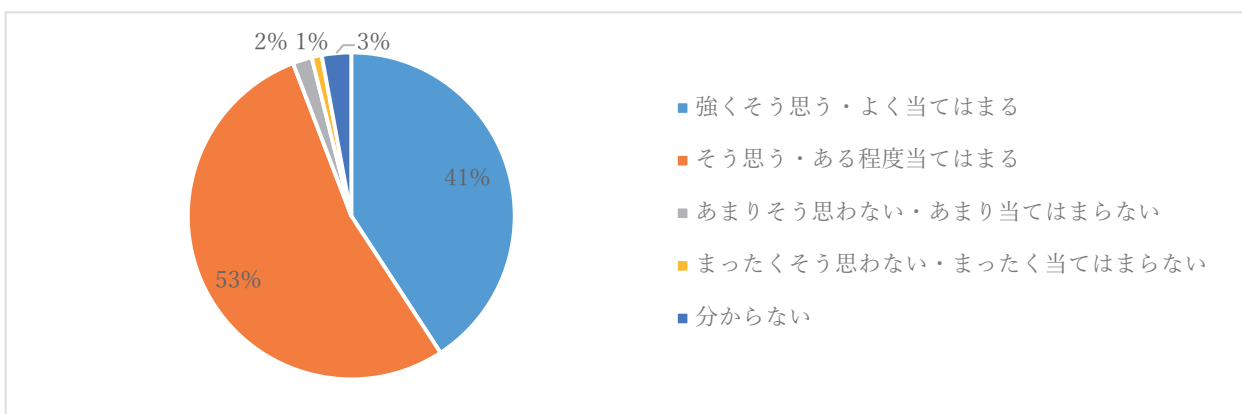
< 2 年生 >

設問 1 質疑応答での質問やアドバイスが、今後の学習を進めていく上で参考になりましたか。



- ・自分のグループは今後のことを明確に考えておらず、その場その場の対応だけになってしまったので、必ず次回のフォーラムではみんなに納得してもらえそうな計画、実行をしていきたいと思えます。
- ・最終的なテーマは何ですか？という質問が多かったので、結局何が言いたいのかまとめられるようにこれから考えていきたいと思えます。
- ・発表をして質問を受けた結果、自分のチームに足りていない所が明確になったので、今回の発表を今後の活動に役立てたいと思えます。
- ・成果発表は上手くできたので良かったです。質疑応答でいろいろな方から参考になる考えをもらったのでそれを踏まえてまた活動を考えていきたいです。

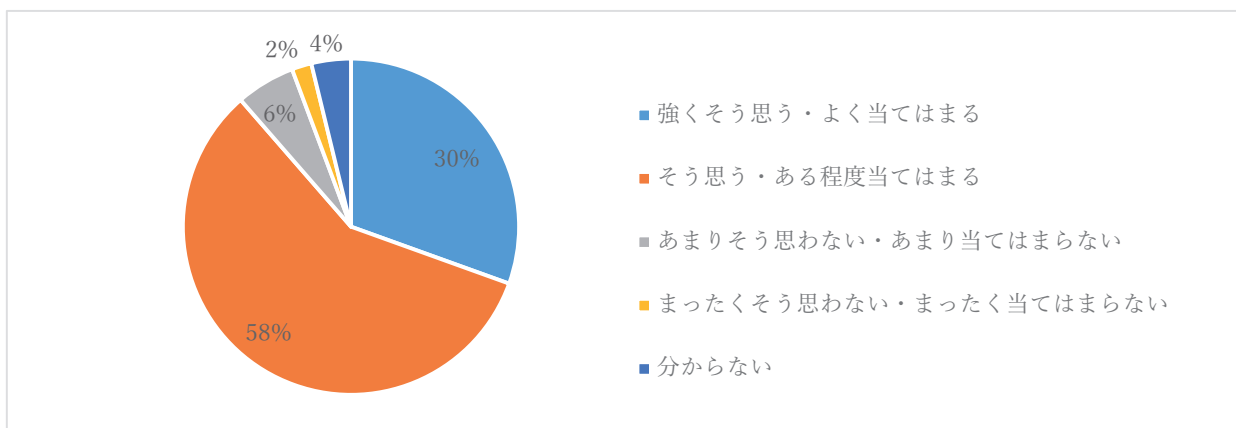
設問 2 山崎亮さんの講演会が、今後の学習を進めていく上で参考になりましたか。



- ・今回のお話で、何かをするにはやっぱり地域の方々と関わり、意見を聞くことが大切だなと思いました。今自分も地域協働学習をしているので今後地域の方々の意見も参考にできたらいいなと思いました。また、平田には空き家などネガティブな考えがあったけど、山崎亮さんのお話を聞いて、空いている空間があることはいいことでうまく活用すればもっともっと平田が良くなるのではないかと考えて期待が高まりました。
- ・日本中の事情を分かった上でその地域にあった活動をする必要があるなと思いました。その地域で何を求められているのか、どうしたらその地域で上手に活動できるかを地域協働学習に取り入れていきたいです。
- ・昨年と言っておられた通り地域開発で一番大切なことは地域の方との関わりだと思うので、私たちだけで考え進めていくのではなく地域の方々の意見も取り入れ考えていくことが大切だと思います。
- ・話された内容のなかに私たちの活動と重なるところがあり、全国の同じような活動も調べて成功例を参考にしていきたいと思いました。

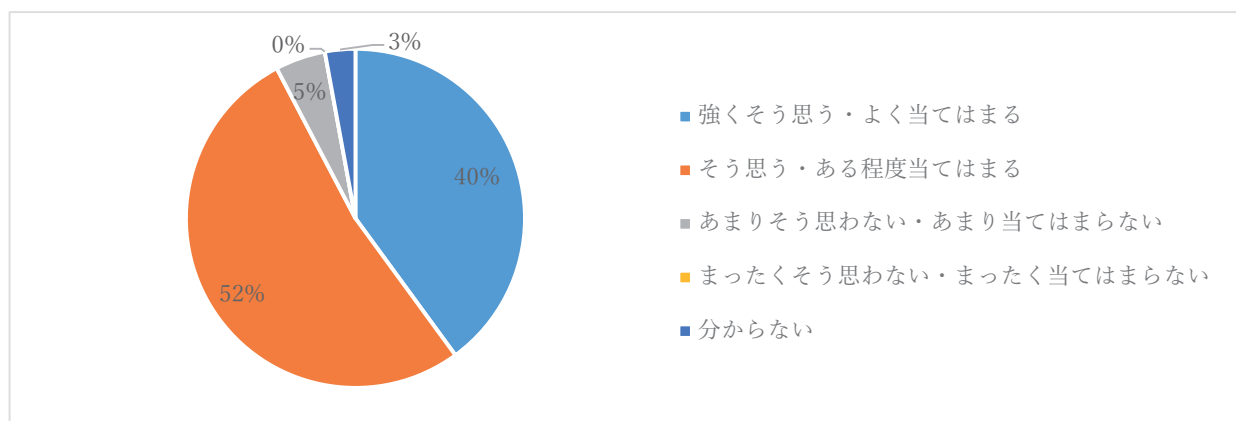
< 3年生 >

設問1 2年生の成果発表が、今後の学習を進めていく上で参考になりましたか。



- ・私が去年やっていた一畑電車についての発表はありませんでしたが、去年とは違うテーマでプレゼンをしていてとてもよかった。質問をする立場になってどのような質問をしたら良いかなど考えることができてよかった。
- ・みんなが学んだことをわかりやすく丁寧に説明していたのが良かった。しかし内容が少し薄い気がするのでそこのところをもう少し内容を膨らませると良いと思う。
- ・まだ気づいていないことがあったけど、まだまだ探究できると思ったし、しっかりできたら地域の人との繋がりが深くできると思った。
- ・今回の発表を聞いて、課題についてどの班もよく調べていると感じた。課題の解決にはこれから取り組んでいくということで、今回受けた指摘や、感想などを取り入れながら課題の解決に向けて取り組んでいって欲しい。

設問2 山崎亮さんの講演会が、今後の学習を進めていく上で参考になりましたか。



- ・今日の講演を聞いて地域を活性化させるにはまず自分たちができることを限界までやって、他の地域の人が住んでみたいと感じるような街づくりをすることが大切だと思った。今日学んだことを生かして大学での勉強に活かしたい。
- ・地域の人との関わりなどで見えてくるものがあるので、地域の人としっかり関わりたいと思った。自分のしたいことと少し重なっているから、話を聞けて、とてもよかったと思う。
- ・地域の人が積極的に空き家を利用するなど、地域を活性化させるには全員がやる気がないといけないなど色々知ることができました。
- ・各県の取り組みや、私たちと似たような活動をしておられる場所に着眼して説明してくださったので、今後の活動に生かすことのできる良い機会になりました。

平田高校

文部科学省指定事業【地域との協働による高等学校教育改革推進事業～地域魅力化型】

# 地域協働フォーラム 2021・秋

## 平田プラタナスプラン

令和3年 **11** 月 **2** 日 (火) 12:40 開会

**第1部** 12:40～13:55

**地域協働学習成果中間発表** / 平田高校2年生

- 地域ブランドの創出
- 多文化共生社会の推進
- ファン人口・交流人口の増加策



明日をひらこう  
夢をひらこう  
みんなでひらこう

**第2部** 14:10～15:25

基調講演 **「いつか帰る君たちのために」**



**山崎 亮 氏** (やまざき りょう)

1973年愛知県生まれ。コミュニティデザイナー。社会福祉士。

株式会社 studio-L 代表取締役、株式会社山崎亮事務所代表、関西学院大学建築学部教授。

地域の課題を、地域に住む人たちが、解決するためのコミュニティデザインに取り組んでおり、まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープのデザイン、住民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。

近隣では隠岐郡海士町の「島前高校の魅力化プロジェクト」、「島の幸福論」、「海士町をつくる24の提案」、出雲市内では伊野小学校へ来校し「人と人がつながる仕組み」をデザインしている。

- 申込期限：令和3年10月22日(金) ●申込方法：申込用紙に記入の上、FAXにてお申し込みください。
- 申込・問い合わせ先：平田高等学校 総務部 (問い合わせ時間：平日 8:30～17:00)
- TEL：(0853)62-2117 ●FAX：(0853)62-0020
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般の方の入場はお断りさせていただきます。  
ご理解いただきますよう、お願いいたします。

主催：平田高等学校

## 「平田高校 地域協働フォーラム 2022・春」

1. 日時 3月9日(水) 13:40～15:10
2. 参加者 全校生徒、教職員、コンソーシアム関係団体と運営指導委員、ミッションプランナー
3. 内容
  - ・1年生地域課題個人探究発表(クラス代表)
  - ・2年生地域協働学習班別成果発表(全員)

### 2年生班別発表テーマ

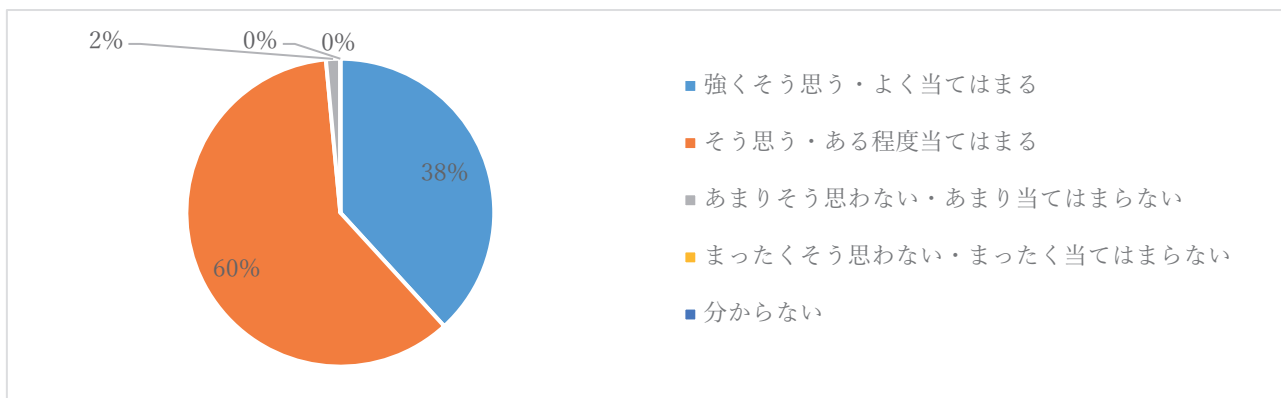
班	発表テーマ
農業A	地元の野菜のおいしさを広める
農業B	柿を広める
農業C	ひらた野菜を知ってもらい、地域活性化を目指す
小豆	あずきスイーツを作ろう～若者人気を目指して～
文化伝承	689年続く伝統芸能「河下盆踊り」
船川A	船川を大切にしていますか？
船川B	釣り人を増やそう！
船川C	町に活気を出そう
スイーツA	木綿街道人口増加作戦
スイーツB	スイーツで木綿街道を活性化
スイーツC	文吉たまきのスイーツ開発
地域医療A	健康寿命と社会参加
地域医療B	島根県の少子高齢化
地域医療C	健康診断に来る人を増やす方法
多文化共生	外国籍の子供たちのために私たちができること
空き家活用A	すずかけ荘をもっと盛り上げよう！
空き家活用B	すずかけ荘の利用状況を把握し、平田地域での認知度を高めよう
空き家活用C	空き家を復活させるために
空き家活用D	すずかけ荘の改善
空き家活用E	空き家の利用者を増やす方法
空き家活用F	すずかけ荘の利用者を増やすためには
廃校活用A	東地区・東小学校の現状について知ろう
廃校活用B	廃校の正体とは
廃校活用C	学校が子どもに与える影響と学校の理想像
イベントA	意外と知らない平田の町
イベントB	楽しめるイベント作り
愛宕山A	愛宕山を活用した地域の活性化
愛宕山B	ゆるキャラで愛宕山を活性化
愛宕山C	捨て猫をゼロにする



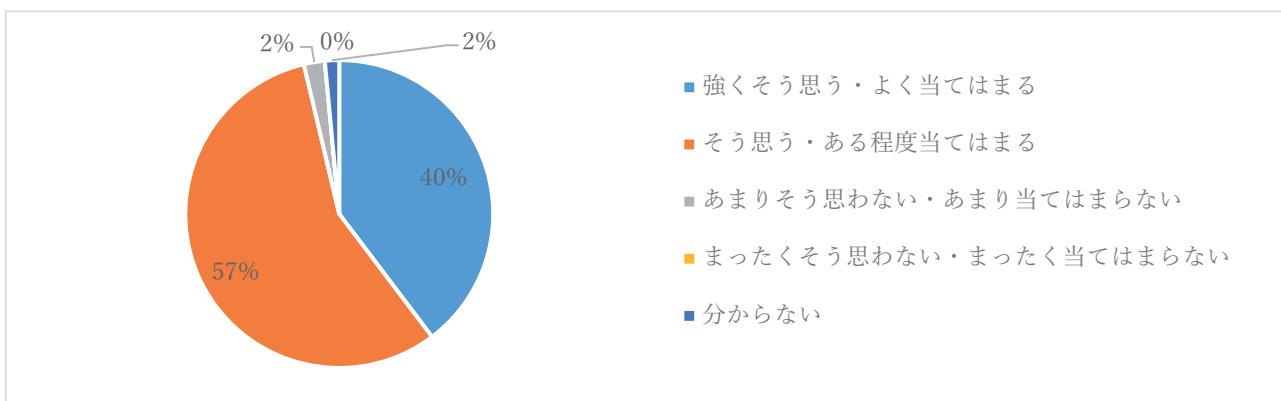
事後アンケート結果＋生徒の感想（抜粋）

< 1 年生 >

設問1 2年生の成果発表が、今後の学習を進めていく上で参考になりましたか。



設問2 個人探究活動の発表（クラス発表を含む）が、聞き手に分かりやすくプレゼンテーションをする技術（資料作成と発表）の向上につながりましたか。

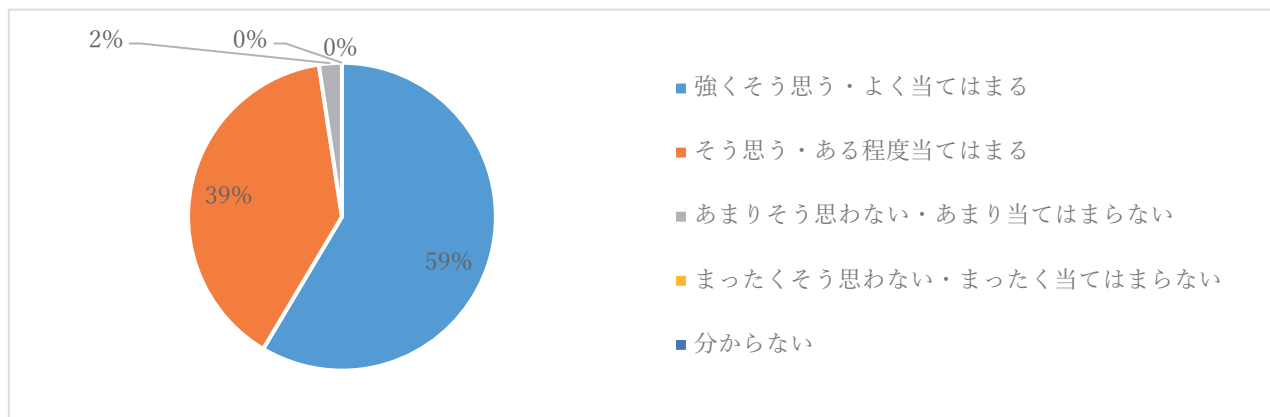


設問3 成果発表全体について、感想を書いてください。

- ・どのグループも伝えたいことがスライドにわかりやすくまとめられていて、視覚的にも読みやすかったので今後の探究活動にとっても参考になった。
- ・スイーツC班の発表がすごく好きなので、最終提案が出来ないまま終わってしまうのは残念なので来年度に繋げられたらいいと思います。他のグループの発表も、それぞれ改善案が具体的で参考になりました。
- ・自分が2年生になった時に発表する時の良い手本になりました。特に聞き手に意識して聞いてほしいところを強調して発表することが重要だと思いました。
- ・今まで気づけなかった平田の良いところが分かったし、今年の2年生の活動を来年も引き継いでもっと平田を盛り上げたいと思いました。
- ・他の人の発表を聞いて、自分では思いつかなかったようなことを聞くことができ参考になると思いました。来年は自分達なので今日の発表を参考にしたいです。
- ・地域について考えて調べてまとめていてすごかったです。2年生の発表はパワーポイントが見やすく分かりやすかったです。実際に行動して試していてすごいと思いました。
- ・2年次の探究活動について少し理解できたのでよかったです。イメージをしっかり持って2年の探究活動をやっていきたいと思いました。

< 2年生 >

設問1 中間発表での質疑応答やアドバイスが、その後の探究学習を進めていく上で参考になりましたか。



設問2 成果発表全体について、感想を書いてください。

- ・今日の成果発表では、皆で協力してきたことをしっかりと発表できたと思います。ほかの班の内容もしっかりと聞いてメモをとることもできたのでよかったです。
- ・たくさんアドバイスをいただいたので、今後に繋げていけるようにアドバイスや改善点を覚えておきたいです。
- ・総探がなかったら知らないままだった平田の野菜をたくさん知ることができたし、農家さんを訪れることによってより詳しい情報をたくさん得ることができたのでよかったです。発表では地域活性化と繋がってない点について指摘してもらいました。この点についてもっと考えることが今後の課題です。
- ・前回の中間発表よりも大きい声でゆっくり詳しく発表ができた点はとてもよかったです。他のグループも色々行動をしていてすごいと思ったし、1年生も自分が考えたことがなかったことを詳しく説明してくれて、新しい発見がたくさんありました。
- ・1年間やってきたことをわかりやすく伝えられたと思います。また、他の班の人がどんなことをしていたのかほとんど知らなかったのも、他の班の発表を聞いて新たに地域のことが分かったのもよかったです。

設問3 1年間の地域協働学習を通して学んだことや自分の成長について、感想を書いてください。

- ・廃校作業の活動を通して自分たちにもできることがたくさんあり些細なことでも実行していこうという気持ちが高まりました。廃校の現状と課題や、廃校になって2つの小学校が統合したことのメリットやデメリットなどを学ぶことが出来ました。学んだことを将来活かしていきたいです。
- ・課題を見つけて班のみんなと協力して解決できるよう調べたり、考えたりすることができました。自分の意見や考えを自分から班のみんなに伝える機会がたくさんあり、積極的になれたのではないかと思います。
- ・コロナによるアクシデントがあって、なかなか思うように進まなかったと思いました。アクシデントを想定して計画をいくつか練ると良いと思いました。自分たちで考えて作ったスイーツを美味しいと言ってもらえてとても嬉しかったです。
- ・私は人前で発表することが苦手だったけど、前よりは少し改善されたと思います。あと、自ら調べてグループの友達と協力することができてチームワークの大切さを改めて感じました。
- ・平田について改めて考えることの出来る貴重な学習になったと思います。今まであまり平田の活性化に関わる活動をしてなかったので、この学習をきっかけにコロナの状況が良くなってきたら様々なイベントなどに参加してみようと思いました。

島根県立平田高等学校

地域協働フォーラム

2022・春

平田プラタナスプラン

令和4年 **3** 月 **9** 日 (水) **13:40** 開会

～ 明日をひらこう 夢をひらこう みんなでひらこう ～

**地域課題個人探究活動成果発表** / 平田高校1年生 (クラス代表)

**地域協働班別探究活動成果発表** / 平田高校2年生 (全員)

～発表テーマ～



農業・小豆

空き家廃校利用

スイーツ開発

船川

イベント

多文化共生

文化伝承

地域医療

愛宕山



- 申込期限：令和4年2月24日(火) ● 申込方法：回答票にご記入の上、FAXにてお申し込みください。
- 問い合わせ先：平田高等学校 総務部 (問い合わせ時間：平日 8:30～17:00)
- TEL：(0853)62-2117 ● FAX：(0853)62-0020
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般の方の入場はお断りさせていただきます。  
ご理解いただきますよう、お願いいたします。

主催：平田高等学校



島根県立平田高等学校

# 第1号

令和3年9月21日  
ワーキングチーム発行

# 総探通信

地域版

～明日をひらこう 夢をひらこう みんなでひらこう～

こんにちは。平田高校ワーキングチーム（教職員チーム）です。

この「総探通信」は、「総合的な探究の時間」という授業の中で取組を地域の皆様にご紹介させていただきたいと思い、これまでは校内向けのみに発行していたものを、地域版として地域の皆様向けに発行することにしました。

平田高校は、地域をフィールドとし、様々な活動を行っています。その活動を通して、地域の未来や自分自身の未来について考えています。地域の皆様には、この活動を知っていただき、応援していただくと幸いです。

記念すべき第1号では、令和3年度1学期に「総合的な探究の時間」で行った活動について紹介します。ぜひご感想やご意見などをお寄せください。

## 1年生

### 4月下旬 クラスごとに探究学習のウォーミングアップ

「体育館の天井にタッチする方法は？」というお題について、たくさんのお案を出し合うために班ごとにご協力いただき、アイデアを出し合いました。そして、その案をグループで話し、実現したい案を一つ選び、その案のメリットとデメリットを考えました。



#### 生徒たちが考えた

#### 「体育館の天井にタッチする方法」の一例

- みんなの肩車をする
- 超厚底の靴を履く
- 体育館のミニチュアをつくる
- 屋根の上って穴を開ける
- 愛する人に天井に上ってもらい、愛の力で…

### 地域とトークウォークダンス

5月19日に予定しておりましたが、1年生が様々なトピックについて対話をする「地域とトークウォークダンス」には、約50名の地域の方に参加申し込みをいただきました。ありがとうございました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、延期させていただきましたことになり、お詫言申し上げます。今後の状況を見ながら、改めてご案内させていただきます。今後ともよろしくお願ひします。

## 6月8日 平田ウィングバスター

平田の農村・沿岸部（ウィング）をバスで巡るツアーが行われました。佐香・鰐淵・北浜・伊野のコミュニティセンターから、地域の現状や課題、地域での取り組み、そして歴史や見所についてお話していただきました。

地域の皆様、ご協力ありがとうございました！

### 〈訪問先〉

一畑薬師、鰐淵寺、十六島風車公園、義勇の碑、立石神社



## 2年生

### 5月25日 フィールドワーク

自分は何について探究したいのかについて希望調査を行い、それをもとに探究活動を行うグループが決定しました。そしてそのグループの親睦も兼ねてフィールドワークを行いました！



## 6月1日 島根県立大学 久保典男教授 講演会

地域政策学部地域政策学科の久保教授より「地域活性化に向けた大学と地域との協働による探究の方法」というテーマで講演をしていただきました。



### 生徒の感想

○探究するにあたって、問題を発見することがまず必要になるということが分かりました。今気付けていないことがあると思うので、注意深く考えて、気付けるようにしたいです。大学でも探究活動のような学びがあると思いますので、大学にもつながる良い経験にしたいです。

### 6月15日 地域協働学習の班別探究活動スタート

6月22日にはミッションランナーさん（専門的知見を持ち、地域協働学習の伴走をしてくださる方）に來校していただき、詳しい探究テーマを決める時の参考にするために、テーマごとに現状や課題についてお話ししていただきました。

《今年度のテーマ》 農業・小豆、文化伝承、平田船川、スイーツ開発、地域医療、多文化共生、空き家・廃活用、イベント、愛吉山



### 7月13日 県内企業見学

県内の企業10社にご協力いただき、1グループ2社ずつ訪問させていただきました。普段は見られないような企業の内側などを見学させていただきました。将来の進路選択について考える良い機会になりました。



### 7月20日 「探究テーマ発表会」

6月に引き続き、多くのMPさんに來校していただき、生徒たちが考えた「班別探究活動計画書」についてアドバイスをいただきました。

また、文化伝承班は、「河下益踊り保存会」の方に、益踊りをレクチャーしていただきました。（教職員も張りの切っ一緒に踊りました！）



### 3年生

### 7月2日 島根県立大学生へのオンライン発表会

1、2年次の探究活動を整理し、自分の進路とつなげて考え、PowerPointの資料を作成、発表を行いました。そして、「進路探究校内発表会」で選出された12名の生徒が、島根県立大学の大学生を面接官と想定した発表会を行いました。大学生からの厳しい質問に戸惑う場面もありましたが、真摯な姿勢で向き合っていました。発表後に大学生から様々なアドバイスをいただくことが勉強になりました。



### 7月29日 山陰探究サミット 島根県民会館

県内外の高校生が集まって（オンラインを含む）、これまでの探究活動の成果を発表する「山陰探究サミット」に、2年次に出雲産小豆と雲州平田船川について探究を行った2グループが参加しました。多くの高校生、高校関係者、審査員の大学の先生方がいる中で発表でしたが、どちらのグループも堂々とした素晴らしい発表でした。



### 参加者の感想

- ・今までの中で一番良い発表ができたので、良かった。
- ・質問にうまく答えられなくて、悔しかった。
- ・他校の発表は、課題を自ら発見し、それに積極的に取り組みだ姿勢が見える発表ですごいと思った。

お問い合わせ先

島根県立平田高等学校

担当/ワーキングチーム

住所/〒691-0001 出雲市平田町1

TEL 0853-62-2117 FAX 0853-62-0020

地域の皆様からの  
ご意見、ご感想、  
その他ご提案など……

おまちしています





島根県立平田高等学校

# 総探通信

地域版

## 第2号

令和4年3月31日  
ワーキングチーム発行

### ～明日をひらこう 夢をひらこう みんなでひらこう～

こんにちは。平田高校地域協働学習ワーキングチーム（教職員のチーム）です。平田高校の「総合的な探究の時間」での取り組みについて紹介する「総探通信」第2号です。前回の第1号はいかがでしたでしょうか？平田高校では、高校生がこれからの未来を自分の力で切り開いていくための力を身につけられるような取り組みを行っています。この総探通信が皆様にそれらの取り組みを知っていただけるきっかけになれば幸いです。

#### 1年生

9月22日「キャリア講演会」 島根大学 丸山美子先生

社会員、客室乗務員、キャリアコンサルタント、大学の教員など多様な経歴をお持ちの丸山先生より、ご自身の体験談などを交えて、文理選択や高校卒業後の進路にとどまらず、どのように生きていくのかについて考えるきっかけとなるようなお話をさせていただきました。



#### 10月27日 「職業人講演会」

島根県立大学 田中輝美先生 × 島根県教育庁教育魅力化特命官 岩本悠先生

田中先生と岩本先生に対談形式の講演をさせていただきました。

「自分の気持ちと向き合うことが重要。自分がどう思うのかと内省する癖をつける。それには言語化が良い。」「人は自分が知っている中からしか選べない。選択肢を広げておくことが大切。」「自分が感じる違和感を大切に。そこに自分のハッピーや自分らしさのヒントがある。」など、自分らしく幸せに生きていくためのヒントをたくさんいただきました。



#### 2月7日～2月10日 クラス内発表会

1年生は島根県が作成した「島根創生計画」をもとに地域課題について個人探究を行いました。探究したことを PowerPoint 資料にまとめ、各クラスを3つに分けて発表会を行いました。そこで選ばれた代表者（各クラス6名）が、地域協働フォーラム2022春で発表します。



#### 2年生

9月16日 学部別出張講義、島根県立大学訪問

島根県立大学の3キャンパス（浜田キャンパス、松江キャンパス、出雲キャンパス）に分かれて、それぞれ訪問しました。模擬講義を受けたり、大学生の方の話を聞いたり、大学というものを身近に感じながら、見学することができました。また、学部別出張講義では、希望する学部の講義を受講しました。（県外の学校に関してはオンラインで、島根大学の生物資源科学部、総合理工学部は対面による講義をしていただきました。）どちらも進路を考える上で、大変参考になりました。



#### 3年生

8月18日 オープンスクール

中学生に向けて、2年次に行った地域協働学習について発表しました。中学生に平田高校の活動を知らせてもらう良い機会になりました。



**全体**

**11月2日 平田高校地域協働フォーラム2021秋**

第一部では2年生全29班が、これまでの班別探究活動についての中間発表を行いました。また第二部では、コミュニティデザイナーの山崎亮さんにお越しいただき、「いつか帰る君たちのために」というテーマでご講演いただきました。



**3月9日 地域協働フォーラム2022春**

1年生の代表者24名が個人探究した内容について発表を行いました。  
2年生はこれまでの班別探究活動の集大成として最終成果発表を行いました。



**2年生発表テーマ一覧**

班	発表テーマ	班	発表テーマ
農業A	地元の野菜のおいしさを広める	空き家活用A	すずかけ荘をもっと盛り上げよう！
農業B	柿を広める	空き家活用B	すずかけ荘の利用状況を把握し、平田地域での認知度を高めよう
農業C	ひらた野菜を知ってもらい、地域活性化を目指す	空き家活用C	空き家を復活させるために
小豆	あずきスイーツを作ろう～若者人気を目指して～	空き家活用D	すずかけ荘の改善
文化伝承	689年続く伝統芸能「河下盆踊り」	空き家活用E	空き家の利用者を増やす方法
船川A	船川を大切にしていますか？	空き家活用F	すずかけ荘の利用者を増やすためには 東地区・東小学校の現状について知ろう
船川B	釣り人を増やそう！	廃校活用A	廃校の正体とは 学校が子どもにも与える影響と学校の理想像
船川C	町に活気を出そう	廃校活用B	意外と知らない平田の町
スイーツA	木綿街道人口増加作戦	廃校活用C	楽しめるイベント作り
スイーツB	スイーツで木綿街道を活性化	イベントA	愛宕山を活用した地域の活性化
スイーツC	文吉たまきのスイーツ開発	イベントB	ゆるキャラで愛宕山を活性化
地域医療A	健康寿命と社会参加	愛宕山A	捨て猫をゼロにする
地域医療B	島根県の少子高齢化	愛宕山B	
地域医療C	健康診断に来る人を増やす方法	愛宕山C	
多文化共生	外国籍の子供たちのために 私たちができること		

お問い合わせ先

**島根県立平田高等学校**

担当/ワーキングチーム

住所/〒691-0001 出雲市平田町1

TEL 0853-62-2117 FAX 0853-62-0020

1年を通してお世話になりました地域の皆様には厚く御礼申し上げます。引き続き協力よろしくお願いたします。



## 「教科主任会」教科横断的な取り組み

### 1. 昨年度の反省

- (1) 臨時休業があり教科書の進度が年間計画通りにはいかなかったため、授業公開週間に研究授業ができなかった教科もあったが、すべての教科で研究授業を開催することができた。
- (2) 外部に向けて案内をすることができず、貴重な意見等をいただくことができなかった。
- (3) 総合的な探究（学習）の時間との横断的な授業を組み立てるのは難しいのが現状である。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため制約はあったが、ペアワーク・グループワークを取り入れた授業や調べたこと・考えたことを論理的にまとめて発表する授業、資料を読み取り思考力を身につけていく授業など、育成したい能力での授業が多く展開された。次年度はある共通テーマを設定し、各教科で内容や展開を工夫した授業開発を図っていききたい。

### (4) 研究開発実施報告書・第2年次（令和3年3月発刊）より

研究開発実施状況報告書より（抜粋）

#### 9 次年度以降の課題及び改善点

- (2) 教科との連携については、「聞く力」「話す力」の醸成場面としての取り組みを念頭に、ある共通テーマを設定し各教科で内容や展開を工夫した横断的な授業開発を図りたい。

### 2. 今年度の取り組み

- (1) 5月25日 教科主任会で以下のことを提案
  - (ア) 研究授業のテーマ・キーワードを設定する。
  - (イ) 10月の授業公開週間中に全員がテーマ・キーワードに沿った授業を行う。
  - (ウ) 5教科は2人研究授業を行う。うち1人は教科横断的な学びの授業を、もう1人はICT機器を活用した授業を行う。
- (2) 6月15日 教科主任会でテーマ・キーワードを募集  
各教科から提出されたテーマ・キーワード  
「グローバル」、「SDGs」、「協働」、「協調と協力」（求める生徒像から）、  
「主体的・対話的」
- (3) 7月8日運営委員会、7月14日職員会議に今年度の研究授業について提案した。また、テーマ・キーワードについて、全体から意見・提案を募集することを説明した。
- (4) 8月17日 運営委員会・職員会議に、テーマ・キーワード『キョウドウ』を提案  
ワーキングチームより、『協働・協同』の提案があり、教務部で検討した結果、「キョウドウ」には様々な意味を持たせることができるためカタカナ表記での『キョウドウ』をテーマ・キーワードとした。
- (5) 9月14日 教科主任会で確認
  - (ア) 研究授業のテーマ・キーワード『キョウドウ』
  - (イ) 授業公開週間10月18日（月）～22日（金）にテーマ・キーワードに沿った授業を



全員が行う。

(ウ)外部には案内をしない。

(エ)研究授業は、できる限り10月18日(月)3～6限に実施する。(研修会の講師に参観してもらうため)

(オ)授業公開週間初日の10月18日(月)放課後に研修会を実施

講師は、岡山大学大学院教育学研究科 宮本浩治先生

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みのために

－「共同・協同・協働」の、何を指すかを観点として－

#### (6)外部との連携

一昨年度は、近隣中学校・高校およびコンソーシアムへ研究授業を案内したが、昨年度および今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者も含めて案内を中止した。

### 3. 研究授業について

※後述の「各教科での取り組みについて」を参照

### 4. 各教科・科目で実施された授業内容について(一部)

※次ページ

### 5. 今年度の反省・次年度に向けての取り組み

教科横断的な取り組みをどのように考え、どのように組み立てていけばよいのか、少しずつ分かってきたように感じる。ただ、授業案を考えていくとき、まだまだ個人の能力に頼り、個人に任せてしまうことも多い。また、これが大きな負担になっているのも事実である。したがって、負担を軽減するために教科会のサポートが重要となってくる。教科会での授業案の検討、資料集め、授業後の研究会などの取り組みを教科全体で分担し、全員が関わり、授業を作り上げていく体制が必要である。さらには、教科が重ならないよう5人程度のグループをつくり、授業案をつくることを検討してほしい。このグループで題材を見つけ、その題材について様々な視点から関係性を考え、教科横断的取り組みにつながるアイデアを生み出してほしい。授業案を研究し、その授業案をそれぞれが各教科の視点で授業することで、生徒たちは様々な刺激を受け、考え、能力を身につけていける。また、このグループから教員の縦と横の連携も構築されていくと考える。

今年度は『キョウドウ』という共通のテーマ・キーワードを掲げて取り組んだ。1年間で終わるのはもったいない。少なくともあと2年間はこのテーマ・キーワードを掲げ、継続して取り組むことで醸成させたい能力を身につけさせてほしい。

2年4組	数学II	三角関数	1年次に「三角比」として定義した、 $\sin\theta$ 、 $\cos\theta$ 、 $\tan\theta$ における $\theta$ を一般角に拡張して、「三角関数」として定義する授業を行った。 始めに、三角比の復習をしその後パソコンのソフトを使って、スクリーンに単位円を映し出し、動径の動きと共に三角関数がどこに現れるかを考察した。 最後に練習問題をペアやグループで考えさせた。
2年2組	数学II	指数関数 ～ ～	まず、指数を拡張し指数の数を自然数から整数までに拡張し、その上で、化学基礎の教科書の内容の負の整数の指数を使った内容の部分に注目し、その内容の理解を深めた。次に数学の分野で指数が0や負の整数が使われている内容を思い出し、その内容が含まれる問題をグループで協働して作成した。最後に作成した問題がどの単元の内容であったかを各班で発表し、情報を共有した。
3年2組	数学B	領域と最大・最小	受験用の問題集の問題で、ICTを活用して図形が動く様子を確認しようとしたが、GRAPE Sが教室では標準パソコンでは動かず、急ぎ黒板でアナログ的に説明した。一通り説明した後、類題プリントを用意していたので、最初自分で解かせ、時間をかけてグループで話し合いをさせた。解説のときに再びGRAPE Sを用いた。
2年1・2組	物理基礎	発音体の振動と共振・共鳴 探究活動 おんさの振動数の測定	授業の初めに、閉管の気柱の固有振動について確認した。 目標を共有し、次の仮説を基に探究活動をおこなった。 仮説『おんさを鳴らしながらガラス管内の水面を下げていくと、閉管の気柱が基本振動の状態でも共鳴音が聞こえると考えられる。このとき、おんさによる音と気柱は共鳴しているので、気柱の振動数がおんさの振動数と考えられる。』 各グループで測定を行い、測定結果をクラスで共有した。その後、温度が上がるとどのような変化がみられるかなどの考察をおこなった。
2年4組	化学基礎 ～身近な物質～	化学と人間生活	教科書前半で学習した内容の復習を兼ねて行った。 まず、個人で資料（製品のラベルの写真）を観察して、今までに学習した事項や見聞きしたことのある事項を、見つけ情報とした。 次にグループ内で発表した。共有した情報から、その資料がどのような製品のラベルかを理由とともに推理した。推理を発表し、クラスで共有した。 普段、何気なく見ているラベルには学習してきた事項が表示されていることに気づき、化学を学習する意味を考えた。
1年1組	保健	現代社会と健康 ストレスへの対処	前時に学習したストレスというものとうまく付き合っていくために、どのような対処法が自分に適しているのかを理解することを目的とした。 まず、前時の振り返りをして、その後自分たちが普段どんな時にストレスを感じるのかをクラス全体で話し合った。 次に個人でそのストレスに対してどのような対処しているのかを思い浮かぶだけ付箋に書き出させた。その後、ストレスへの対処法の代表的な4つについて学習した。 前の活動で作成した付箋とワークシートを用いて4人グループで4つの対処法に区分し、自他の対処法を共有した。この活動を通して自分に適した対処法がどのようなものか考えた。
1年3組	コミュニケーション英語I	俳句を英語で書けるようになる	英語で俳句を書くという授業を行った。 前半では俳句のルールについて読み解き、各自で単語を出しあった。 後半は4人グループで出し合った英単語を組み合わせて俳句を作ることができた。 最後の方では日本語の意味がどのようなものになるかを考え、一人ひとりが主体的に考えることができ、協働的な授業になったと思う。
2年2組	コミュニケーション英語II	Let's enjoy Haiku in English!	まず、英語で書かれた俳句を鑑賞し、その情景をグループ毎に日本語で描写する活動を行った。逐語的ではなく、伝えたい心情や風景に焦点を当てた翻訳例を用い、日本語と英語の違いについて理解した後、班ごとに英語の俳句作成に挑戦した。さらにそれを、定型に当てはめて日本語の俳句とし、完成した日英の俳句をクラス全体で共有しあった。この授業を通して、英語と日本語の言語の違い、文化的な違いの面白さを味わうことができた。
2年1組	英語CII	英語の俳句を作ろう	松尾芭蕉による俳句「古池や 蛙飛び込む 水の音」にさまざまな英訳がある中で、本時においてはラフカディオ・ハーンによる英訳のほかにいくつかの英訳を紹介することで、日本語と英語の言語面における違いに気づかせながら、松尾芭蕉の俳句への理解を深めた。 次に、英語で俳句を作る際のルールを読み取った後、一人につき英単語を8つ挙げ、グループでそれらを使い、英語の俳句を作り日本語に訳した。グループ毎の発表において、完成した俳句を鑑賞した。俳句を通して、日本語と英語の言語面における違い、また俳句の背景にある文化について考える機会を持つことができた。
3年4組	英語CIII	Let's Enjoy English Haiku	「英語の俳句を楽しもう」というテーマで、以下の手順で行った。 ①「古池や蛙飛び込む水の音」を英訳した俳句（5種類）を読み、どれが好きか、なぜ好きかペアで話し合う。 ②英語の俳句7つを鑑賞し、好きな句を日本語の俳句の形で訳してみる。 ③英語の俳句に関する教科書の英文を読んで英語の俳句を作る際の3つのルールを読み取る。 ④グループで英語の俳句をつくる。 ⑤できた英語の俳句と日本語の訳を発表し、お互いの俳句を鑑賞し合う。
1年1組	家庭基礎	食生活の安全と衛生 ～食品の選択～	食品及び調理法を選択する際に、情報を読み取り判断し、その根拠・理由を明らかにすることを目的とした。学習活動内の問いについて、まずは3つのテーマ（大豆、食材、食品の表示）でエキスパート活動を行った。その後各エキスパートから一人ずつ集まり3人組になり、ジグソー活動を行った。その際、加工食品の表示や、レシピを見比べることで、違いに気づき、表示をいかに活用するか考えられるように設定した。調理をする場面において、食材購入、レシピの決定等、私たちにたくさんの選択肢があること、またその選択は状況により異なることを学んだ。この後、自らの日々の選択が未来を作っていくといった学習につなげたい。

## 「国語科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

### 【実施クラス】

2年2組 文系（24人）

### 【目標】

『出雲風土記』を読み、古代の平田地域について何がどのように描かれているのか知る。

- ① これまでの学習を元に、適切な現代語訳ができる。
- ② グループで話し合いながら、『出雲風土記』の特徴に気づき、まとめることができる。
- ③ 郷土の価値について知り、郷土への思いを深める。

### 【内容・指導の流れ等】

学習内容	学習活動と教師の支援
<input type="checkbox"/> 『出雲風土記』についての知識の確認 ・現存する唯一の『風土記』であること	
<input type="checkbox"/> 『出雲風土記』における「平田地域」の描かれ方を知る。 ○地名の由来を確認し、平田地域がどのような地域であったかを知る。 ○『風土記』が地域の自然・社・特産品などの記された地誌であることに気づき、当時の平田地域について考察する。  <input type="checkbox"/> 『出雲風土記』とはどのようなものか考える。	・地図を見て、平田地域の郡名を確認する。  ・「楯縫郡」全文を読ませ、何が取り上げられているのか、またこの地域の特徴について気づいた点を書き出す。  ・グループで交流させた後、全体で発表。 ※教師は机間巡視をし、適宜語句の説明を加える。
<input type="checkbox"/> まとめ ～ 古代 平田地域について～	・振り返りシートを記入する。

### 【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

本校の生徒はグループ学習に対して抵抗感無く取り組んでいる。キョウドウして作業をすることはできるが、他者の意見を聞きさらに自分の考えを深めていくというキョウドウにはまだ至っていない。また、本事業で生徒たちは学校外の人のお話を聞く機会を多く与えられている。そのような機会をとらえ、今後は、他者のことばを聞いて考える力を高めていきたい。

「地歴公民科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

【実施クラス】 島根県立平田高等学校 1年2組

【目標】

- ・高度経済成長以降,日本の産業構造の変化について理解し,日本の企業割合の大部分は中小企業が占めていることを理解させるとともに,大企業との関係性について「下請け」という観点のもと理解する。
- ・日本の中小企業の中には,世界トップシェアを誇っている企業が数多く存在し,中小企業と大企業が「キョウドウ」することで経済が発展していることを理解する。

【内容・指導の流れ等】

	学習活動	予想される生徒の反応	指導者の支援
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的に有名な日本の企業を考える。</li> <li>・現在の日本の産業構造について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大企業をいくつか回答する。</li> <li>・自分の生活を想像して一定の理解を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークによって,回答の幅を広げる。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の産業構造の傾向はどのように変遷してきたのかを理解する。 → 高度経済成長以降,産業構造の高度化が進んだことを理解する。</li> <li>・現在の日本における,中小企業と大企業の関係性について考える。 → 中小企業の割合が大企業よりも遙かに多いこと,下請け関係について,中小企業が世界産業を支えていることを理解する。</li> <li>・現在の日本の中小企業をとりまく問題を理解する。 → バブル崩壊以降,中小企業を取り巻く様々な問題について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工業が増加しているや,先端産業のことについては,述べられる。</li> <li>・大企業と中小企業の力関係には一定の理解を示す。</li> <li>・世界トップシェアを誇る中小企業については,回答が見られないが,中小企業ありきの大企業であることには一定の理解を示す。</li> <li>・バブル崩壊以降,日本の企業を取り巻く問題については一定の理解を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業構造の変化がわかるグラフを生徒に掲示する。</li> <li>・産業構造の高度化が明確な資料を生徒に提示する。</li> <li>・「下町ロケット」を例に日本の下請け企業の実情を紹介する</li> <li>・世界トップシェアを誇る日本の中小企業を具体的に紹介する</li> <li>・自分たちの生活を例に,中小企業との関わりが希薄になりつつあることを示す。</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の経済活動は中小企業なくしては回らないことを理解する。 → 大企業と中小企業の「キョウドウ」が経済を発展させていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業の役割と重要性について理解を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済についての「キョウドウ」はもちろんだが,社会は「キョウドウ」によって成立していることも併せて理解できるように説明する。</li> </ul>

【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

・本校の生徒は,地域協働学習に関わる機会が多いにもかかわらず,なぜ学習をしなければならないのかを理解していない生徒が大多数を占める。教科横断的な学習は,そのような生徒に興味を持たせたり,課題についての理解を深めさせたりする上で有効であると感じている。今後は,地域協働学習を軸としながらキョウドウ学習を行うことで,多角的な思考が得られるような取り組みを実施したい。

## 「数学科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

【実施クラス】 2年2組 【科目名】 数学Ⅱ

【目標】 化学基礎で数学より先に習った指数の拡張で0乗やマイナスの指数の定義を理解し、それを利用した問題を解けるようになる。

【内容・指導の流れ等】

まず、指数を拡張し指数の数を自然数から整数までに拡張し、その上で、化学基礎の教科書の内容の負の整数の指数を使った内容の部分に注目し、その内容の理解を深めた。次に数学の分野で指数が0や負の整数が使われている内容を思い出し、その内容が含まれる問題をグループで協働し作成し、情報を共有した。

【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

今回取り上げた「指数の拡張」については、生徒は内容を理解することは難しいことではなかったが、当初の目的であった数学で既に出会ったことのある「指数の拡張」の含んだ内容という点においては、「二項定理」や「等比数列の一般項」で出会っていたということをなかなか見つけることができなかった。数学の分野でもそうであるように、教科を横断した内容を考えるということは、生徒はしようとしていないことが多い気がする。例えば、先日数学で「増加・減少」という言葉を英語で言うと何という質問に対して答えが返ってこないという場面に出くわした。これが英語の単語テストだと生徒は、覚えた単語をひたすら書くことができるはずである。だから今後も教科横断的な学習も適宜取り入れながら、生徒の理解を深める学習を展開できるように教材研究をしていきたいと思う。

【実施クラス】 1年4組 【科目名】 数学Ⅰ

【目標】 2次関数のグラフがx軸の正の部分と2点で交わる条件を指摘し、それを応用する。

【内容・指導の流れ等】

- 1) アプリケーションソフト『grapes』を利用して、放物線  $y=x^2-2mx-m+6$  が定数  $m$  の値の変化に応じて移動してゆく様子を生徒が視覚的に捉え、この放物線がx軸の正の部分と2点で交わる条件を、生徒同士の合議から絞り込ませて行く。
- 2) 改変問題「放物線  $y=x^2-2mx-m+6$  がx軸の〔 〕の部分と〔 〕となるように、定数  $m$  の値の範囲を定めよ」を2～4人程度のグループで問題を作り、自分達で解決する。

【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

- ・ 前項1)の条件 (①判別式 $>0$ , ②放物線の軸  $x=m$  について  $m>0$ , ③放物線とy軸との交点のy座標 $>0$ ) は、グラフの状態(可視的なもの)から、それを特定する数式による条件表示(数式化)を促すものである。これは、複数の条件が絡み合うが故に、生徒にとっては難しい作業である。そこで、合議(キョウドウ)を取り入れたのだが、ほとんどのグループでは核心的な指摘が出ず、最終的には教師の発問と示唆による「まとめ」の形をとることとなった。多くの生徒にとって、“定数が変化する”という状況自体が、理解しがたいものであった。それ故、共通の土俵で合議して問題を解決するまでに至らなかったであろう。キョウドウが生かされるためには、それなりに理解できる土俵(素地)が生徒間に共通にあって、生徒にとって未知であるが予測可能な範囲内の問題になっていないと難しいと思い知らされる結果であった。だが、同時に一問に一時間を割く取り組みをしない限り、新しい考え方は習得できないとも言える。
- ・ 2)の取り組みは途中で授業時間が終了したので、課題として次時に発表を行った。授業中のみならず休憩時間に生徒同士で話し合う姿勢が多く見られたことは、“成果”といっていよいであろう。

## 「理科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

【実施クラス】 2年1組

### 【目標】

P. P. を見て、解説を聞き、出雲平野がどのようにして形成されたかを知る。

配布したプリントを完成し、大地の動きの全体の流れをつかむ。

出雲平野と今の自分の生活の関わりを考察する。

### 【内容・指導の流れ等】

過程	●生徒の学習活動	■指導と支援のポイント
導入	●教科書序章を見て、物質の特に地下資源の利用の学習を思い出す。	○人類の利用している鉱物や金属について簡単に触れ、思い出させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の目標を確認する。</li> <li>●本時の学習活動の説明を聞き、理解する。</li> <li>●地球の誕生から、初期の大陸と移動、日本列島の形成までをP. P. で見て、理解する。 パンゲア、プレートテクトニクス等を理解する。 日本列島形成の概略が説明できるようにする。</li> <li>●地域の地形の形成の概略を知る。</li> <li>●地域で産出される地下鉱物資源について知る。</li> <li>●産出される資源と特に古代と近世の人々の暮らしの関わりを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この学習活動のねらいを確認させる。</li> <li>○P. P. の概要（内容、順序等）を説明してから、解説に入る。</li> <li>○重要な語句について、確認しながら解説を進める。</li> <li>○日本列島は海底が南北からの力によって、盛り上がった形で形成されたことを強調する。</li> <li>○P. P. に表現していない、小さな事柄にも極力触れる。</li> </ul>
まとめ	●本時の振り返りをする。 ・郷土と金属器使用、金属製造の歴史について配付シートに記入する。	○本時の振り返りを書くよう指示する。

### 【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

郷土である島根は古代より日本の中で、大陸から渡来人の持って来た金属の精錬・加工等の技術をもって近代まで先進地域として中心的な位置を占めていた。遺跡からは銅剣銅矛など出土し、他地域との交流も伺わせており、関連する博物館、展示の内容等も他県に比べると充実している。しかしながら、そのような郷土の地史や日本史に対する貢献について知る生徒は極めて少ないと言わざるを得ない。

1年次に科学と人間生活で学習した地質（主に造山活動）と2年から化学基礎、化学で学ぶ金属とその加工（合金と精錬）をキョウドウさせ総合的に学習することにより、地球の誕生から日本列島の成立、その地質の特質である含有金属に触れ、古代から続く地域に住む人々のキョウドウ作業による金属加工の一端を知ってもらうことを目標に授業の流れを組み立ててみた。

卒業後、少なくとも一旦は他県に出て行く生徒の多い中、島根とはどのようにして成り立ち、どのように時を経て、今どうなっているのかという時間軸を持って語ることができる人間を育てていきたいという思いがある。現状ではなかなかそこまで話ができる生徒は少ない。今後少しでも今回のような機会などによって、地域を基盤とした自己のアイデンティティーを確かなものとして持っている人材を育てていく必要がある。

## 「理科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

【実施クラス】 2年1, 2組 理系生物選択者 18名

【目標】・学習で理解できた免疫のしくみに関する知識を、学習課題解決のために適切に活用する。

- ・グループ内で協同（協働）して課題解決に取り組む。
- ・発表やワークシートの記入において、グループや自分の考えを表現する。

【内容】 教員から提示された学習課題を、3～4人のグループでジグソー法を用いて解決する。

【内容・指導の流れ等】

- ・事前に学習課題を提示し、その時点での自分の考えをワークシートに記入しておく。
- ・グループの各人が「エキスパート活動」を行う。そこで得られた情報をグループに持ち帰り、学習課題の解決に役立てる。
- ・グループで「ジグソー活動」を行う。エキスパート活動で得られた情報を持ち寄り、課題について考える。グループの意見をまとめ、発表用のホワイトボードに意見と理由を書く。
- ・クラス全体で「発表活動」を行う。学習課題に対するグループの意見とその理由を発表する。また、他の班からの質問に答える。
- ・個人で「学習課題」に取り組む。事前に記入したワークシートに、学習課題に対するその時点での自分の考えを記入する。
- ・本時のふりかえりをワークシートに記入する。

【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

ジグソー法による学習課題の解決は、生徒たちにとって初めての取り組みであったが、戸惑うことなく楽しんで活動していた。自分たちだけで課題解決につながった班もあり、理解度も予想以上に良かった。主体的に学習する活動として、とてもよい活動だったと感じた。

エキスパート活動で得た情報を他のメンバーに説明することに苦心していた生徒も多かったが、活動自体を嫌がっている様子ではなかった。発表においても目標に到達できなかった生徒が多く、説明する力の不足については、日常の授業でも発表の場を多く設けて表現力を育てていきたい。

## 「保健体育科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした授業研究～

### 【実施クラス】

1-1 保健「ストレスへの対処」

### 【目標】

自分がストレスを感じた時の対処法に気づき、自分と他者のストレスへの対処法を共有することによって適切な対処法を理解し、実生活に生かそうすることができる。

### 【内容・指導の流れ】

#### ○内容

自他のストレスへの対処法をグループ活動などで共有し、その活動からどんな対処法が自分に適しているかを理解させる。

#### ○指導の流れ

まず、本時の目標を示し、導入では前時の振り返りと本時の学習内容である「普段どんな時にストレスを感じるか」という発問をした。その問いへの答えを数名に発表させ、クラスで共有した。その後、自分が普段どのようなストレスへの対処をしているのかを付箋に記入させた後、各班でのキョウドウ学習に入った。自分と他者のストレスへの対処法を班毎にグループ分けし、その傾向を探った。各班でのキョウドウ学習後、各班からクラス全体への学習に移行することによりストレスへの対処法をさらに共有化していった。これらのキョウドウ学習を通して、自分に適した対処法や様々な対処法を理解することに繋がった。

### 【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

保健では、学習したことを実生活に活かすことが重要である。本時は普段感じるストレスへの対処という単元であり、生徒たちが考えやすいものであったと考える。付箋にそれぞれが対処法を記入し、それを小グループで共有したり、他者の対処法について深掘りしたりするなど、関心を持っている様子が見えた。グループ内で意見交換がしっかりと行われていた様子から「キョウドウ」ができていたと感じた。

今後の課題としては、小グループから学級・学年・学校といった大人数の中でも自分の思っていること、考えていることを発言できるようにすることである。また、普段の授業から生徒に考えさせ、発言させる機会を与えるとともに、課題を発見させ、「キョウドウ」でその解決に向けた意見を出し合うような機会を設定することが大切であると考える。



## 「芸術科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

### 【実施クラス】

1年3、4組音楽選択

### 【目標】

平田高校校歌の曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりなどに関心を持ち、自分なりのイメージをもって歌う学習に主体的に取り組むことができるようにする。

### 【内容・指導の流れ等】

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点(・)と支援(◎) ☆評価
1. 本時の流れと内容を確認する。	◎本時の流れがわかるように内容をホワイトボードに映す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">校歌の文化的・歴史的背景を知り、自分なりの思いを込めて歌おう。</div>	
2. 全員で校歌を歌う。	
3. グループに分かれ、平田高校の校歌にはどのような音楽的な特徴（リズムの特徴）があるのか、作曲者のどのような思いが込められているのか、感じたことをワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7つのグループに分け、活動を行う。相手の意見も尊重する態度を大切にしよう伝える。</li> <li>・ 図書館から提供された資料をもとに、気づいたことがあればメモをとる。</li> <li>・ 実際に楽譜が残っている3つの校歌について、実際にリズムをたたきながらどんな印象を持ったか、グループで話し合い、どんな思いが込められているのか、何に気をつけて歌ったら良いか意見をまとめる。</li> </ul>
4. 平田高校のこれまでの3つの校歌にはどのような歴史的特徴や音楽的特徴があるのかを図書館資料を参考にしながらワークシートにまとめる。	<p>☆関② 校歌の旋律やリズム、歌詞などに関心をもって歌っているか。</p> <p>【発言 生徒観察 ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校歌の意図するものを歴史的背景や特徴のあるリズムから感じ取ったり、その背景にも目を向けながらワークシートに意見をまとめる。</li> </ul>
5. 校歌の歴史とその音楽的な特徴について気付いたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まとめた意見を発表する。</li> <li>・ 3つの校歌の文化的・歴史的背景について思いを馳せながら、気付いたことを生かして歌うように助言する。</li> </ul>
6. 現在の校歌をみんなで歌う。	<p>☆関② 校歌の旋律やリズム、歌詞などに関心をもって歌っているか。</p> <p>【発言 生徒観察 ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日の活動をふりかえる。</li> <li>・ 次時は、現在の校歌を、今日の学習で見つけたことについて表現の工夫をして歌うことを伝える。</li> </ul>

### 【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

今回平田高校校歌という普段から慣れ親しんでいる作品について、歴史的な背景にも目を向けながら解釈し、自分なりのイメージを持って歌う活動に取り組んだ。その結果、自分たちが日常生活の中で目にする景色などが実際の校歌の歌詞の中に出てくることもあり、グループ活動でも積極的に話し合い、考えることができた。今回の活動を通し、身近な音楽作品を取り上げることで生徒達も興味を持って活動に参加することができたのではないかと感じている。

## 「英語科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

### 【実施クラス】

2年1組

### 【目標】

英語の俳句に関するルールを理解した上で、実際に英語で俳句を作り、鑑賞することができる。

- ①グループ内でアイデアを出し合い、話し合いながら英語の俳句をつくることができる。
- ②日本語と英語という言語面での違いや、俳句の背景にある文化に対する理解を深めることができる。

### 【内容・指導の流れ等】

生徒の活動	教師の活動と支援
英訳された俳句を読む ・英訳された俳句を比較し、相違点を見いだす。	・机間巡視をし、確認する。
英文理解 ・英語で俳句を作るときのルールについて読み取る。	
スピーキング ・一人につき英単語を8つ挙げ、グループでそれらを使い、俳句を作る。	・机間巡視をし、確認する。
ライティング ・英語の俳句を作る。日本語に訳す。	・机間巡視をし、確認する。
発表 ・完成した俳句を理解し、味わう。	・記述内容が理解できたかを確認する。
まとめ	

### 【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

グループ活動において、他者の意見に耳を傾けることはできるが、対等の立場で自分の意見も明確に伝えることに課題を残している生徒が多い。また、与えられた課題に対して協働して作業することにとどまり、新たな視点やアイデアを出しながら、話し合いを発展させ、学習を深めていくためには、指導者の支援が必要な現状である。

今回は、国語と英語を融合させることにより、言語表現の差や、文化的な背景の言語への表出について学習した。生徒は言語の違いにそれほど戸惑うことなく、俳句を作成し、鑑賞することを楽しみながら、言語について考える機会を持つことができた。

「家庭科」の取り組み ～「キョウドウ」をテーマとした教科横断による授業研究～

1 授業研究

【実施クラス】 1年1組

【目 標】 食品及び調理法の選択において情報を読み取り、根拠・理由を明らかにして判断することができる。【思】

【内容・指導の流れ等】

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点(・)と支援(◎)	評価
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの配布。</li> </ul>	
	Step0 麻婆豆腐でお父さんの誕生日を祝おう！食材をどう選ぶ？調理はどうする？		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族のロールプレイングをやる。(3人1組)</li> <li>Step1を記入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配役は各班で決めさせる。</li> <li>配役上の意見と自分自身の意見を記入させる。</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step2 エキスパート活動</li> <li>同じ配役3人でグループを作り、各テーマについて専門家になる。</li> <li>A 大豆(ア、イ)</li> <li>B 食材(ウ、エ)</li> <li>C 食品の表示(オ、カ)</li> <li>ワークに取り組み、2つの資料を比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エキスパート資料を配布する。(A～C)</li> <li>A～Cのエキスパートごとに、2つの資料を配布する。(ア～カ)</li> <li>Step3でジグソー班(家族)に戻り、エキスパート情報を伝え合うことを知らせる。</li> <li>疑問点はエキスパート班で確認し、共有させる。</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step3 ジグソー活動</li> <li>情報を伝えあう。2分×3人</li> <li>聞き手は情報をメモする。</li> <li>問いについて話し合い、問いの回答とその理由を記入する。</li> <li>発表者を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎情報は簡条書きにさせる。</li> <li>各班でア～カの資料を見比べ選択し、ホワイトボードに記入させる。</li> </ul>	
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step4 クロストーク</li> <li>発表者の意見を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の班の意見をメモし、Step5の参考にさせる。</li> </ul>	情報を読み取り、根拠・理由を明らかにして判断することができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step5 1人に戻る。</li> <li>自分の考えをまとめる。</li> <li>自分の意見と根拠・理由を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ジグソー班の考えと違ってよいことを伝える。</li> <li>疑問点はワークシートに記入させる。</li> </ul>	【思】

【キョウドウ・教科横断的な学習に関する生徒の現状と今後の課題】

事前アンケートで食生活における家庭での実施状況を14項目尋ねた。家庭での実施が少ない項目として“自分で商品を購入すること”がある。そこで自立し、主体的な消費者となるために商品選択の際の視点を、協働することで養いたいと思った。協働する手法としてジグソー法を用い試みた。今後も教材研究を続けたい。

## 2 ホームプロジェクト

夏と冬の休業中の課題としてホームプロジェクトに取り組んだ。文化祭では校内選考により 15 作品を掲示発表した。クラスにおいてはグループ発表を行った。

### 【ホームプロジェクトで求められる態度】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

### 【ホームプロジェクトの例（本校生徒作品）】

テーマと概要	レポートの様子
<p>「ゴミ削減について考える。」</p> <p>毎週、家のゴミ出しをする際に感じること(多くて重い、生ごみがにおう)をきっかけにごみ削減を目標に実施。</p> <p>市が発信する情報を使い、生ゴミの水気をきる、リサイクルできるものは資源ゴミに出すなど、実践に繋がりました。家族へ声をかけ、分別に協力してもらい、袋2つ分(7.5kg)あったごみを1袋(3.5kg)に減らしました。</p>	
<p>「大好きな家族のえがおを守るために。」</p> <p>脳梗塞を患った祖父に楽しい気持ちになってほしい、また、家族の健康維持につなげるという目標で実施。</p> <p>病気(原因、症状)について調べ、料理、運動、祖父のためにできることを実践していきました。</p>	
<p>「着ない・着れない服を断シャリし、使い道を考える。」</p> <p>不要な服を処分し服が入った1室を広くするため改善に臨みました。</p> <p>服を資源と考え、処分方法を調べ、譲渡(小学生へ)、寄付、古着屋を利用しました。断シャリ後のメリットや今後、購入する際の注意など消費生活で参考になる事柄についても調査しました。</p>	

【次年度に向けて】 指導の際にこの学びのスタイル(“See, Plan, Do, See, 発表”)を他の活動に繋げていくよう意識付ける。

## コンソーシアム会議・運営指導委員会

### 1. 第1回運営指導委員会

#### (ア)日時

7月20日(火) 13:00～15:30

13:00～13:20 応接室(本日の説明)

13:20～14:10 2年各教室(班別探究学習参観)

14:20～15:30 プラタナス記念館2階会議室(会議)

#### (イ)会議内容

##### ① 校長挨拶

##### ② 文部科学省事業について

・全体計画

・2年生地域協働学習

・「平田高校地域協働フォーラム2021・秋」

##### ③ 情報交換

#### (ウ)いただいた意見

- ・大学としても高大で連携して学びを深めていくという視点が今後必要になっていくと考えている。高校生、大学生が交流することによって双方の学びが深められるようにしていきたい。
- ・目の前にあることと向かい合う姿勢と大きな視野は、往還するものである。課題に向かう際にミクロとマクロを行き来する中で考えを深めてほしい。
- ・教員の中でどれだけ狙いが共有されているかが課題。MPさんに対してもその授業の狙いをしっかりと伝え、共有してもらうことが必要である。活動を良いものにしていくためには大人とのやりとりが大切である。

### 2. 第1回コンソーシアム全体会議

#### (ア)日時

10月4日(月) 14:00～16:00 プラタナス記念館2階会議室

※8月3日実施予定であったものが、コロナウイルス感染拡大防止のために延期

#### (イ)会議内容

##### ① 校長挨拶

##### ② 令和3年度平田高校魅力化コンソーシアム役員会名簿について

##### ③ 高校魅力化アンケートについて

##### ④ 昨年度事業の報告及び今年度事業の計画について

・全体計画

・2年生地域協働学習

・「平田高校地域協働フォーラム2021・秋」

##### ⑤ 情報交換

#### (ウ)いただいた意見

- ・生徒は様々な体験をすることで成長している。勉強だけでなく、地域協働学習を通して多様な経験ができるのは良いことである。
- ・平田高校は地域に密着した活動が新聞で取り上げられるも多く、地元は喜んでいる。
- ・地域協働学習に取り組むことにより、地域から必要とされていると感じ自己肯定感の向上に役に立っていると思う。勉強に向かう姿勢も変化を見せているのではないか。

### 3. 第2回コンソーシアム全体会議 兼 第2回運営指導委員会

(ア)日時

11月2日(火) 12:40~17:00

12:40~15:25 地域協働フォーラム2021・秋

12:40~12:50 開会行事  
12:50~13:55 地域協働学習中間発表(2年生)  
14:10~15:25 基調講演

15:40~17:00 プラタナス記念館2階会議室(会議)

(イ)会議内容

- ① 校長挨拶
- ② 「平田高校地域協働フォーラム2021・秋」について講評
- ③ 文部科学省事業の振り返りについて
- ④ 県教育委員会からの情報提供について  
・県立学校への学校運営協議会制度の導入について
- ⑤ 情報交換等

(ウ)いただいた意見

- ・発表や質疑応答の際にメモを取っている生徒が少なく残念だった。普段からメモを取りながら聞く習慣をつけておくと役に立つ。
- ・特定のテーマを選んでいる生徒が多い。テーマは、必ずしも希望するものでなくてもそれが学びに繋がる場合もある。人数を調整して特定の班が多くなりすぎないようにする方がよいのではないか。
- ・プレゼン能力が大切である。メモをとってプレゼンを聞き、質疑応答などもメモをとる習慣をつけさせたい。プレゼンテーションが堂々とできると自信がつく。

### 4. 第3回コンソーシアム全体会議 兼 第3回運営指導委員会

(ア)日時

3月9日(水) 13:40~17:00

13:40~15:10 地域協働フォーラム2022・春

※2月8日実施予定であったものが、コロナウイルス感染拡大防止のために延期

13:40~13:50 開会行事  
13:50~15:10 地域課題個人探究発表(1年生)  
地域協働学習成果発表(2年生)

15:25~17:00 プラタナス記念館2階会議室(会議)

(イ)会議内容

- ① 校長挨拶
- ② 「平田高校地域協働フォーラム2021・春」について
- ③ 文部科学省事業の成果と課題について
- ④ 次年度以降について
- ⑤ 情報交換

(ウ)いただいた意見

- ・地域協働フォーラムの生徒発表を進行する先生方が、質疑応答が活発になるような工夫をしておられ、ファシリテーターとしてのスキル向上を感じた。
- ・生徒の発表の様子から、ポテンシャルの高さや生徒がさらに成長する可能性を感じた。
- ・日常的に地域住民や、保護者、卒業生が生徒と関わることができるような体制について検討してほしい。
- ・負担増とならないように工夫しながら、今後も地域連携や地域協働学習の取組を継続してほしい。地域としても協力していきたい。

## 編集後記

令和元年度に受託し、学校全体で取り組んできた文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業～地域魅力化型～」3年間の指定期間が終了する。

事業初年度はそれまで取り組んでいた地域課題解決学習をベースとしつつ、「平田プラタナスプラン」構築という遥かな旅へ、まさに手探りの船出であった。そして、事業開始からまもなく、新たに始まった「令和」という時代変化の感受も微風ほどであったこの年度の終わりには、突如として新型コロナウイルス感染拡大の強風に煽られることとなる。実際に事業2年目の令和2年度には臨時休業もあり、人との接触を制限せざるを得ない感染状況が続いたため、教育活動は停滞することとなった。令和3年度には感染状況を見極めながらではあるが、これまでの過去2年間の知見を活かして実験的に変更を加え、事業終了後も継続していきたい新たな学びの姿に向けて試行錯誤を重ねているところである。この成果報告書は、今後もこの事業の目指すところを継承し、発展させていくための指針となることを願って作成したものである。

3年間の事業の成果は何か、と問われるといたって心許ない。しかし、「高校魅力化評価システム」のアンケート調査から窺うことのできる生徒の変容には、明るい兆しを読み取ることができる。例えば、この事業開始とともに入学した令和元年度入学生について、1年次と比較して、肯定的な回答が30パーセント以上増えた項目の中に、次のようなものがある。

- ・将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい  
(1年次 29.6パーセント、3年次 70.1パーセント)
- ・私に関わることで、社会状況が変えられるかもしれない  
(1年次 31.6パーセント、3年次 70.1パーセント)
- ・地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい  
(1年次 44.7パーセント、3年次 76.2パーセント)

また、生徒の変容を表す一端として、ある生徒が総合型選抜の入試で書いた課題レポートの一節をここに引用したい。地域協働学習の中で積極的に活動し、目を見張るほどの成長を遂げた生徒の一人である。

(前略)～私が以前に読んだことのある「質問する、問い返す」という本には、日本は謙遜社会であると書かれている。「失敗してはいけない」という考え方や、「企画が成功した際にもその喜びを表面に出さず控え目にしておいた方が失敗したときに周囲からたたかれないのではないか」という心理について書かれているが、確かにこれらは、誰もが一度は感じたことがあるだろう。謙遜社会であるために日本人は自己肯定感が低く、新たにチャレンジすることに対して消極的であるという内容が印象に残っている。新たにチャレンジすることが少ないということはつまり、主体性を持って協働する機会が少ないということである。それゆえ、日本人は主体的に取り組む機会を逃していることになる。この現状を少しずつでも変えていくために、教育は重要な役割を果たすことができる。学校の中で、主体性を高めるような授業内容を取り入れ、大学入試で非認知能力が評価されれば、日本の社会そのものも徐々に変わっていき、主体的に取り組むことをためらわない社会になるだろう。～(後略)

3年間にわたる文部科学省事業は終了するが、地域との協働の中で生徒の新たな学びを支えようとする私たちの「探究」は今後も続いていく。生徒たちの成長を励みとしつつ、3年間の取り組みから芽吹いた多くのものを見逃すことなく育てていきたいと考えている。

最後に、事業を全面的に支えていただいたコンソーシアム参加団体の皆様、本校の取組に対して貴重なご意見をいただいている運営指導委員の皆様、文科事業の管理機関として伴走いただいた県教育委員会教育指導課の皆様にご心より感謝申し上げます。

